

# 第1章 連携事業の展開

本章では、東京大学 CoREF が自治体等と連携して行ってきた協調学習の授業づくりプロジェクトの平成 30 年度の活動について報告します。

第 1 節では、私たちの研究連携の基本的な枠組みについて解説します。

第 2 節、第 3 節では中核となる研究連携事業である「新しい学びプロジェクト」、「未来を拓く『学び』プロジェクト」について、それぞれ今年度の活動報告を行います。

第 4 節では、自治体の枠を超えて、これらの研究連携の核となる先生方を伸ばす試み、「本郷学習科学セミナー」について報告します。

第 5 節では、今後の研究連携の発展に向けて、CoREF が産官学の連携で進めている新しい展開について報告します。

第 6 節では、今年度 CoREF が講師を務めた関連の研修等について一覧で報告します。

なお、第 1 節は、平成 28 年度活動報告書の当該部分の原稿に加筆修正したものです。

- 第 1 節 研究連携の基本的な枠組み
- 第 2 節 新しい学びプロジェクト
- 第 3 節 未来を拓く「学び」プロジェクト
- 第 4 節 連携の核を育てる～本郷学習科学セミナー～
- 第 5 節 新しい展開
- 第 6 節 今年度の研修実施状況

## 1. 研究連携の基本的な枠組み

### (1) 前提となる学びのゴールの転換

CoREFでは、平成22年度から全国の教育委員会及び学校と連携し、協調学習を引き起こすための授業改善の連携事業を行ってきた。連携では、「知識構成型ジグソー法」という共通の授業の型を使った授業デザイン、実践、振り返りを1セットとする実践研究を多くの参加者が互いに関わりながら継続的に行い、実践例を蓄積している。

新学習指導要領改訂でもそのひとつの柱として、アクティブ・ラーニングの視点（主体的・対話的で深い学びの過程が実現しているか）からの授業改善が盛り込まれている。こうした学びの転換は、単に学習形態の転換ではない。背景には、21世紀の社会を生き抜くために子ども達に付けておきたい資質・能力の転換やそうした資質・能力あるいは深い教科等の知識を子ども達が自分のものにしていく上で前提となる「学習者としての子ども」観の転換がある。

平成28年12月にまとめられた中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、これからの時代に求められる人間像として「主体的に学びに向かい、必要な情報を判断」すること、「対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるとき、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展」させられること、「変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりより人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていく」ことを挙げている。

これを言い換えれば、第一に、一人ひとりの子どもが「これだけ覚えておけば安心」という答えを受動的に受け入れるような学び手ではなく、新しい問題状況において自分で答えを作り出せる学び手になることが求められているということである。アクティブ・ラーニングで私たちが育てたいのは、答えの受け手ではなく、作り手である。

ただし、一人ひとりが自分で作る答えというのはどうしてもその人の経験則に縛られてしまうから、視点の異なる他者と考えを出し合ってみることで、自分の考えを見直し、多様な視点を統合し、自分の答えの適用範囲を広げることが必要になる。

協調的な問題解決を通じて、一人ひとりがよりよい答えを自分で作り出せると、その先に「次に問いたい問い」がそれぞれなりに生まれてくる。

これらは、まさに私たちが協調学習として追究してきた学びのあり方だと言ってよい。授業場面に即して言えば、これまでの科学や文化、研究の上に立って、先生方が目の前の生徒に本時考えてほしい「問い」を用意される。「問い」に答えを出すための部品（資料や視点、ヒントとなる活動など）もいくつか用意されるだろう。これが授業のデザインになる。この「問い」に対する答えの作り手は、子ども達個々人である。多様なこだわりを持った個々人がそれぞれの仕方で部品を組み合わせてつくっていく。その際、違う部品や答えを持った仲間と考えを比較吟味したりしながら、自分なりに納得できる「問いへの答

え」をつくりあげる。自分なりに「これはわかった」という答えが見えてくると、(だからこそ初めて)「ここはどうなの?」という「次に聞きたい問い」が生まれてくる。

こうやって整理してみると、目指す学びの転換の本質は、単純にグループ学習等の子どもが主体的に参加する授業形態を増加させたり、他者とコミュニケーションをとる機会を増加させたりすることではなく、彼らが主体的に学び、他者とのかかわりを通じて、自分なりの答えを作り、試し、磨き、その先に分かったからこそ聞きたい自分なりの「次の問い」を見つけていくような学習のチャンスをどれだけ設けてあげられるか、にあると言ってよい。

## (2) 連携で何をやってきたか

私たちは、こうした学びの転換に向けて、「知識構成型ジグソー法」という一つの授業の型を実践者・研究者・行政関係者で共有し、実践と振り返りのサイクルを協調的にまわし続ける研究連携によってアプローチし続けてきた。

連携において実践者・研究者・行政関係者に期待される役割は下表の通りである。

実践者	研究者	行政関係者
・「知識構成型ジグソー法」の型を使った授業の実践	・「知識構成型ジグソー法」の型の提供	・自治体の教育課題に応じた「知識構成型ジグソー法」の活用
・オンラインでの協調的な授業デザイン検討		・CMSやメーリングリストによる協調的な授業デザイン検討の場の提供
・研修会参加 ・共通の枠組みでの振り返り	・研修や振り返りのためのツールのデザイン・提供	・研修会参加 ・実践や振り返りの共有化
・新しい課題の発見とそれに即した取組の見直し		

表1：研究連携で期待される役割

また、研究連携でやってきたことの意味を大きく3つに分けると、

- ①「知識構成型ジグソー法」の型を使って教室の学びの質を上げること。すなわち、子ども達が自分で考えて答えを作る、そのときに友だちの考えと比較検討しながら自分の考えをよりよくしていく、そうしたチャンスがたくさんある授業を実現すること。
- ②実践者・研究者が「知識構成型ジグソー法」という一つの授業の型とそれに結びついた振り返りの枠組みを共有し、授業実践と振り返りのサイクルを回し続けること。すなわち、実践者・研究者が多様な仲間と一緒に授業をデザインしたり、授業の中で子どもが自分で考えながら話して、学んでいくときの事実を丁寧に見取ったりすること、そこで得た気づきを次の授業デザインに生かしていくことの繰り返しを通じて、私たち自身の授業観や子ども観を変えていくこと。

- ③こうした私たち自身の協調的な学びの可能性をより一層広げていくために、産官学を巻き込んだ私たち自身の学びのネットワーク・オブ・ネットワークスを展開していくこと。

と整理することができる。「知識構成型ジグソー法」の型を使って、1回1回の授業で起こる学びの質をよくしていくことと同じくらい、そうした試みを実践者・研究者が自分たちの学びの課題として捉え、協調的によりよい答えを追究していくことで、私たち自身の授業論や学びの科学をよりよいものにしていくことがこの研究連携の肝である。また、そのときに、常にその学びの場に多様性を持ち込むネットワーク・オブ・ネットワークスの存在を大切にしたい。

### (3) 型があると何がよいのか

#### ①子ども達の学びにとっての型のよさ

教室で子ども達が協調的に学ぶチャンスを増やしてあげること、そうした学びを引き起こしながら、私たち自身が授業観・子ども観を変えていくことのために、「知識構成型ジグソー法」という一つの型をずっとみんなで研究し続けていることにどんなよさがあるのか。この研究連携における型のもつ意味について整理しておきたい。

子ども達の学びにとっての型の意味としては、「知識構成型ジグソー法」の型が「人はいかに学ぶか」の研究に裏付けられたものであり、私たちがもともと持っている学びの力を引き出しやすい場を作り出すものであるところが大きい。

教室で引き起こしたい協調的な学び——一人ひとりが自分で答えを追究しながら、他者の異なる視点や考えと出会うことで、自分の考えの質を上げていくような学び——は、実は遊びや日常生活の場面で子ども達が自然にやっていることでもある。どんなときに子ども達がそうした学びをしているかを今、私たちなりに整理すると、

- ①一人では十分な答えが出ない課題をみんなで解こうとしている。
- ②課題に対して一人ひとり「違った考え」を持っていて、考えを出し合うことでよりよい答えをつくることのできる期待感がある。
- ③考えを出し合ってよりよい答えをつくる過程は、一筋縄ではいかない。
- ④答えは自分で作る、また必要に応じていつでも作り変えられる、のが当然だと思える。

といった4つの要素にまとめることができそうだと考えている。

これに対して、一般的な教室でのグループ学習を想定すると、場合によっては、一人でも十分答えが出そうな課題を考えていたり、誰か一人の考えだけで十分な答えになってしまいそうだったり、考えたことを発表しあうだけで終わりになってしまっていたり、グループで話し合っても最後は先生が「正解」をくれたりしてしまうこともあるかもしれない。

「知識構成型ジグソー法」の型を使った授業には、最初に子ども達が自分にとって「一

人では十分な答えが出ない課題」に自分一人で答えを出そうとしてみて、答えを出すのに先生が必要だと考えるいくつかの部品をグループに分かれて学んできて（エキスパート活動）、異なる部品について学んできた子ども同士が1つの班に集まって、学んできたことを使いながらみんなで「一人では十分な答えが出ない課題」によりよい答えを作ろうとしてみて（ジグソー活動）、各班で作った答えを教室全体で交流しながら、さらに掘り下げて（クロストーク）、最後にもう一度各自が自分で答えを作ってみる、という一連の流れの中に、上述した①～④の要素を担保するような仕組みが備わっている。これが子ども達の学びにとっての型のよさである。

## ②私たちの学びにとっての型のよさ

上の説明を丁寧に読んでいただくと、協調的な学びを引き起こしやすい4つの要素を満たす「知識構成型ジグソー法」の型のよさは、必ずしもすべてこの型を使いさえすれば担保されるわけではないことにお気づきいただけるだろう。

子ども達にとって「一人では十分な答えが出ない課題」とは具体的にどんなものなのか、その課題に「答えを出すのに先生が必要だと考えるいくつかの部品」は何になるか。また、それを考える上では本時の課題に先生が期待する答えは何かも同定しておかないとならない。こうした型の中身が本時の子ども達にとって適切なものになってはじめて、ジグソーの型を使って協調的な学びを引き起こしやすい4つの要素が満たされると言える。

これを私たちの学びにとってのよさという観点で見れば、授業づくりにあたって考えるポイントが明確になるということである。

「目の前の子どもたちにとって問うに足る問いとは」「教科等のねらいに即して、本時の課題に対して行き着いて欲しい答えの肝は」「だったら必要な部品は」といったジグソーの授業をデザインするとき向き合う授業づくりのための問いは、型を越えて子ども達の協調的な学びを引き出すために普遍的な問いであるといつてよい。

こうした問いに対して、私たちの研究連携では実践者と研究者がオンラインや対面の場でアイデアを出し合ってよりよい答えを作り出そうとする協調的な授業デザインを続けてきている。そのとき「エキスパートというのはこういう活動で～」といった共通理解は既に持った上で、本質の部分に切り込んだ話から始められるのが私たちの強みである。

また、こうして一緒につくった授業の振り返りから、「この子がこんな分り方をしていた」「こんなところでつまづくのか」「だとしたら、次はこうすれば」といった私たち自身の分りの共有も行うことができる。

型を共有するよさとしてもう一つ大事なものは、こうした授業づくりや振り返りの共有を自治体や教科、校種を超えて行うことができる点である。「ジグソーの授業づくりでは中学校や高校の先生から専門的なコメントが聞ける」、「普通なら絶対会わないような他の自治体の先生と一緒に研究できる」、「こだわりの違う同じ教科の先生とも一緒に授業づくりができる」、「他の教科の授業を見たり、一緒に考えたりができる」といった声は、研究連携に参加するいろんな実践者から折に触れて伺ってきた。

私たちの学びにとっての型のよさは、私たち自身が「知識構成型ジグソー法の授業づくり」を一緒に解きたい「一人では十分な答えが出ない課題」として共有することで、多様な自治体、校種、教科の先生方、研究者がバックグラウンドの違いを生かして多様な考えを出し合いながら、それぞれの考えの違いから学び、一人ひとりの生きて使える授業論や「人はいかに学ぶか」の知見をよりよいものにしてい

きやすい場をつくれるということだろう。また私たちは、こうした協調的な授業づくりの輪を産官学の連携に広げることで、私たちの学びのリソースとしての一層の多様性の確保と新しい課題の創出も進めてきた。

#### (4) 成果と今後に向けて

こうした研究連携を通じて、実際に教室で使ってみられる「知識構成型ジグソー法」の実践事例を9年間で2,267例蓄積することができた。また、その一つひとつの授業において、子どもの学びについて、授業のデザインについての私たちの様々な気づきや仮説も生まれた。こうした成果や課題の具体物は、本報告書巻末のDVDに収めている。

こうした先生方の学びを支える研究事業や研修等の形も年々進化し続けている。連携の規模が拡大し、参加の仕方も多様化していく中で、「知識構成型ジグソー法」のやり方だけが普及していくような広まりにしないためにも、子どもの学びを具体的に想定しながら授業をデザインし、想定と比べながら子どもの学びを丁寧に見とり、次の授業づくりに活かしていくような授業研究の充実が連携の中核的な課題となる。特に今年度は授業づくりのPDCAサイクルを質高く回していくことに焦点化して取組を進めてきた。これらについては、本章の続く部分や第1部第2章、第2部第2章で報告したい。

こうした授業研究の充実のためには、授業デザインや授業で起こっている学びの過程についてご自分の言葉で豊かに語ってくださる先生方、実践者と研究者の垣根を越えていくような先生方のご活躍が1つの肝となる。本章第4節で報告する「本郷学習科学セミナー」はそうした先生方の学びの場としてデザインしているものである。

また、新しい学びの評価のためのツールの開発や高大接続改革、産業界との連携など、私たちの取組をより実効的なものにしていくための次の課題も見えつつある。こうした新しい展開については、本章第5節及び第1部第3章で報告する。

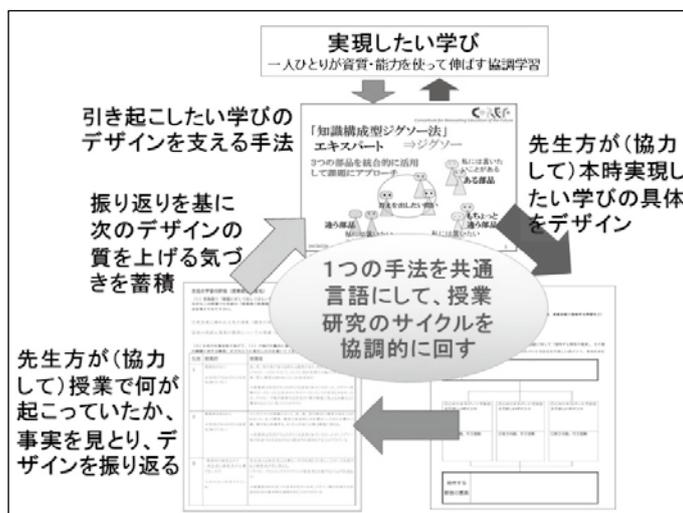


図1：CoREFの研究連携の基本的な枠組み

## 2. 新しい学びプロジェクト

### (1) 連携事業の概要

「新しい学びプロジェクト」は、平成22年度より開始したCoREFと市町教育委員会、学校等との小中学校における協調学習を引き起こす授業づくりのための研究連携事業である。研究連携の中心的活動は、「知識構成型ジグソー法」による教材の開発、実践、振り返りを中心としたサイクルを、住む地域、教えている学校、そして教員歴も多様な実践者とCoREFスタッフが、ウェブ上のネットワークも活用しながら協調的にまわしていくことである。平成24年度から「新しい学びプロジェクト」に参加する市町教育委員会等は、「新しい学びプロジェクト研究協議会」という組織を立ち上げ、この研究協議会とCoREFとが連携して「新しい学びプロジェクト」として活動を行っている。

研究連携の具体的な方法として、各参加団体は国語、算数・数学、理科、社会、英語の5教科の部会から任意の部会（複数可）に、研究推進員となる教員を参加させ、研究推進員は教材開発を中心とした活動を行う。研究推進員の数は自治体の任意である。また、研究推進員に加え、サポートメンバーという形で研究に携わる教員も設定されている。参加団体の中には、校内のすべての先生方をサポートメンバーとしている学校もある。

参加団体は、指導主事や学校管理職ないしそれに準ずる職員を1名以上研究推進担当者として用意し、研究連携の事務的なサポートを行っている。また、参加団体間及び研究協議会とCoREFとの連絡業務を円滑に行うために、研究推進担当者の代表が事務局を務める。

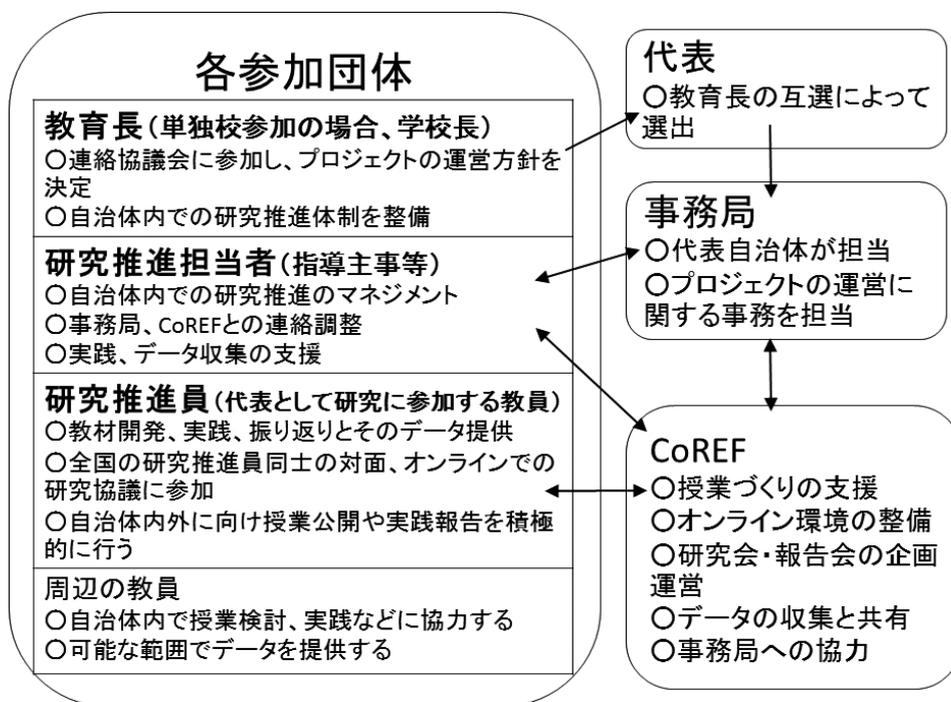


図2: 「新しい学びプロジェクト」研究の進め方

## (2) 今年度の事業の報告

### ① 今年度の組織体制

今年度の「新しい学びプロジェクト」参加団体は、表2の17都道府県26団体である。「新しい学びプロジェクト」研究協議会は、参加団体から互選で代表、副代表を選任している。今年度の代表は埼玉県教育委員会小松弥生教育長が務め、埼玉県が事務局を担当した。

北海道東神楽町、様似町、福島県伊達市、埼玉県、埼玉県戸田市、東京都市大学等々力中学校・高等学校、長野県文化学園長野中・高等学校、静岡前向き授業づくりネットワーク、京都市立中学校新しい学びプロジェクト研究協議会、和歌山県有田川町、湯浅町、大阪府清風中学校・高等学校、鳥取県日南町立日南中学校、島根県浜田市、津和野町、広島県安芸太田町、せらにし教育研究会、ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会、山口県新しい学びプロジェクト研究協議会、高知県教育センター、福岡県飯塚市、大分県教育センター、大分県竹田市、九重町、豊後高田市、宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校

表2：平成30年度「新しい学びプロジェクト」参加団体（平成31年1月現在）

また、今年度各参加団体から研究推進員として登録された教員数は表3の通りである。全体で149名の研究推進員が登録された。この他にサポートメンバーとして508名が登録されており、計657名が今年度の研究に携わる教員として登録されている。

また今年度は、「協調学習の授業づくりにおいて指導的役割を担う人材」として各参加団体からの推薦で25名の「協調学習マイスター」を任命し、研修等でご活躍いただいた。

国語 (31)		社会 (32)		算数・数学(40)		理科 (30)		英語 (11)		その他 (5)	
小	中高	小	中高	小	中高	小	中高	小	中高	小	中高
10	21	15	17	20	20	12	18	3	8	1	4

表3：平成30年度「新しい学びプロジェクト」教科別研究推進員数（名）（平成31年1月現在）

### ② 今年度のスケジュール

今年度の事業の主なスケジュールと概要は表4の通りである。

#### a) 連絡協議会

「新しい学びプロジェクト」のビジョンと運営方針は、年度の初めと年度末に行われる教育長、研究推進担当者による連絡協議会で決定される。この連絡協議会では、新規参加を検討される団体のオブザーバー参加も歓迎している。

#### b) 研究推進員等実践者の活動

「新しい学びプロジェクト」で実践研究を行う研究推進員、サポートメンバー、参加団体外に異動したOB等の先生方は、参加団体内のローカルなコミュニティやメーリングリ

ストを活用した教科部会で随時教材開発、実践報告を行っている。このメーリングリストには、平成31年1月現在、1300名超の実践者、教育行政関係者、研究者などが登録されている。

この他に、年1回の東京大学での2日間のワークショップを中心にした拡大研究推進会、公開研究授業と同時開催で行う年2回の教科部会、報告会と同時開催で行う教科部会など、年間4回の対面の研究会がある。これらへの参加は任意である。

なお、拡大研究推進委員会は、「新しい学びプロジェクト」外の実践者や研究者と合同で学ぶ会として設定し、異なる研究ネットワーク間のネットワーキングを図っている。

日程	イベント・会場	概要
随時	教材検討、検証授業	参加団体内のローカルなコミュニティやメーリングリストを活用した教科部会で随時教材開発、実践報告
5月11日	第1回連絡協議会 (京都市立中京中学校)	教育長、研究推進担当者が集まって、今年度の研究推進体制と研究の進め方を確認
8月4日 5日	拡大研究推進委員会 (東京大学)	8月4日午後《学習科学に基づく授業づくりとその支援についての研究会》 演習：主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究 授業者一人ひとりが自分のねらいに基づいて見とりの観点をどのように設定し、どう授業研究に活用していくかについて考える。 8月5日午前《全体研究会》 研究推進員の実践交流／教育長・担当者の情報交換
10月26日 27日	授業研究会／教科部会 (大分県竹田市)	《1日目》公開研究授業及びその協議 《2日目》実践交流及びシミュレーションによる授業検討
11月9日 10日	授業研究会／教科部会 (和歌山県有田川町)	《1日目》公開研究授業及びその協議 《2日目》実践交流及びシミュレーションによる授業検討
2月2日	第2回連絡協議会／ 教科部会 (東京大学)	《第2回連絡協議会》 教育長、研究推進担当者が集まって、各参加団体の研究状況を交流、全体としての今後の研究の進め方を協議 《教科部会》 教科ごとに実践交流を行い、授業デザイン原則をまとめる
2月3日	報告会 (東京大学)	表5参照のこと

表4：平成30年度「新しい学びプロジェクト」年間スケジュール

### c) 報告会

平成31年2月3日には東京大学で年次報告会を開催した。今年度の報告会には、「新しい学びプロジェクト」ご関係の先生方125名、他都道府県、市町の教育委員会、学校、研究機関、一般企業から79名の計204名の参加申込をいただいた。

<p>パネルディスカッション1「主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究」  《有田川町教育委員会》  西川 恭矢（有田川町立御霊小学校 教諭）・上道 賢太（有田川町立石垣中学校 教諭）  《竹田市教育委員会》  坂本 佐知子・河野 桂志（竹田市立竹田南部中学校 教諭）  《東京大学 CoREF》  飯窪 真也・齊藤 萌木（東京大学 CoREF 特任助教）</p>
<p>ラウンドテーブル「小・中学校の各教科における『知識構成型ジグソー法の授業づくりと実践について』</p>
<p>パネルディスカッション2「小中高大接続による『新しい学び』とその評価に向けて」  畑 文子（埼玉県立大宮高等学校 教諭）  萩原 英子（安芸太田町教育委員会 主幹）  吉村 浩一（飯塚市教育委員会 主任指導主事）  白水 始（東京大学 CoREF 教授）</p>

表5：平成30年度「新しい学びプロジェクト」報告会プログラム

今年度の「新しい学びプロジェクト」では、これまで以上に授業研究に力を入れた取組を進めてきた。その柱は、教科等のねらい、つけたい資質・能力を基に子ども達の学びを具体的に想定しながら授業をデザインすること、こうした想定と子ども達の学びの実際を比較しながら学びの事実を丁寧に見とり、想定（＝授業デザインの仮説）を見直すことである<sup>1</sup>。

報告会のパネルディスカッション1では、こうした授業研究の具体的な事例やそこから見えてきた学びの事実と授業デザインの仮説、こうした授業研究を校内の先生方が一丸となって進める具体的な取組についてご報告をいただいた。

また、ラウンドテーブルでは、小中高等学校の校種を超えて各教科の実践で見えてきた学びの事実を基に今授業デザインや支援の原則として言えそうなことをご報告いただき、小グループに分かれて具体的な実践の交流を行った。

パネルディスカッション2では、小中高での協調学習実践研究を通じて見えてきた子ども達の学びの姿や可能性と、大学、その先の社会で活躍するために伸ばしたい資質・能力を結びつけながら、どのような小中高大接続を実現させられるとよいか、ディスカッションを行った。一筋縄ではいかない課題に対し、子ども達の学びの事実に基づいて、日々の制約の中でも当面どんな接続のふりにも負けない子ども達を育てていきたいといった高校の先生の思い、小学校で身につけた学び方が中学校でも確かに見るといった子ども達の育ちの確かさに立脚したい、上からの接続だけではなく下からもあるべき接続を提案していきたいといった市町教育委員会の先生の思いなど、様々な立場から重要な論点が交換

<sup>1</sup> こうした授業研究の考え方については、第1部第2章及び第2部第2章に詳しい。

された。

③ 各参加団体の取組

こうしたプロジェクト全体としての取組と有機的にリンクしながら、各参加団体はローカルに研修や公開研究授業等の機会を設け、研究を進めている。今年度事務局に報告された公開研究授業等624授業を表6、7、8、9、10、11に一覧で示す。

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	教材作成者	教科	内容
1	2018年4月11日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	大脇 優子	英語	新しいALTの先生に旭の良さを伝えよう
2	2018年4月11日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高2	小林 大輔	日本史	国家の起源
3	2018年4月12日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	大脇 優子	英語	新しいALTの先生に浜田の良さを伝えよう
4	2018年4月12日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清水 忍	道徳	学習目標ジグソー
5	2018年4月16日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清水 忍	社会	第一次世界大戦
6	2018年4月18日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	原田 優次	理科	気体の発生と性質(赤い噴水の謎)
7	2018年4月25日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清水 忍	社会	第二次世界大戦
8	2018年4月25日	ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会	浜田市立倉橋中学校	中1	宮岡 英明	数学	読み取る算数
9	2018年4月26日	OB等	南風原町立南風原中学校	中2	玉城 晃	国語	言葉が照らし出す 物語『タオル』 重松清
10	2018年5月8日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高3	倉島 亮太	地理	自分の名前を美しく書こう~英文字のコーナー
11	2018年5月9日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清水 忍	理科	江戸時代①
12	2018年5月9日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清水 忍	社会	大正洋装
13	2018年5月18日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清水 忍	社会	エネルギー
14	2018年5月18日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立戸内小学校	小6	片桐 克敏	算数	門の面積
15	2018年5月18日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高2	白田 隆光	化学基礎	「物質の三態」
16	2018年5月18日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高2	長田 里恵	英語	羽生治
17	2018年5月18日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	南角 文秋	古典	古典文法: 動詞の活用形
18	2018年5月21日	浜田市教育委員会	浜田市立大分小学校	小5	相民 勝彦	社会	わたしたちのくらしと国土
19	2018年5月22日	ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会	浜田市立倉橋中学校	中2	宮岡 英明	数学	文字式の利用
20	2018年5月23日	埼玉県教育委員会	久喜市立江面第二小学校	小6	松本 仁春	理科	人や動物の体
21	2018年5月24日	浜田市教育委員会	浜田市立片島小学校	小5	奥野 裕美	国語	世界で一番やまかい音
22	2018年5月24日	OB等	南風原町立南風原中学校	中2	玉城 晃	国語	表現を見つめる 小説「夏の葬列」 山川方夫
23	2018年5月25日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中6	児玉 正昌	理科	水溶液の性質
24	2018年5月30日	ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会	浜田市立倉橋中学校	中1	宮岡 英明	数学	四則の混じった計算
25	2018年5月31日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	二宮 憲佑	社会	多文化共生の考え
26	2018年5月31日	浜田市教育委員会	浜田市立片島小学校	小3	井上 久美	算数	門と球
27	2018年6月1日	浜田市教育委員会	浜田市立片島小学校	小2	大塚 美佳	国語	おと紙
28	2018年6月5日	浜田市教育委員会	浜田市立片島小学校	小4	安田 久美子	国語	走!
29	2018年6月6日	浜田市教育委員会	浜田市立片島小学校	小4	大塚 美佳	算数	折れ線グラフ
30	2018年6月7日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	南角 文秋	古典	「[訓栞]『大江山の歌』
31	2018年6月11日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	五島 睦人	理科	化学変化と原子・分子(酸化還元)
32	2018年6月11日	せらにし教育研究会	世羅町立せらにし小学校	小5	小林 あかね・山崎 明史	算数	整式の性質をしらべよう
33	2018年6月11日	浜田市教育委員会	浜田市立片島小学校	小5	竹田 大地	算数	体積
34	2018年6月12日	せらにし教育研究会	世羅町立世羅中学校	中3	村上 奈央	理科	水溶液とイオン
35	2018年6月14日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小1	関 由美子	算数	たし算(1)
36	2018年6月15日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清水 忍	社会	江戸時代
37	2018年6月15日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清水 忍	社会	江戸時代②
38	2018年6月15日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立簡賀小学校	中2	河本 聖志・亀川 吉美	その他	学校のきまりを守る~給食時間の過ごし方~
39	2018年6月15日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高3	水越 健太郎	英語	センター試験英語確認問題
40	2018年6月19日	有田町教育委員会	有田町立藤巻小学校	小6	西山 恭太	社会	元寇 北条時宗の決断
41	2018年6月19日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小4	細川 隆典	算数	わり算の仕方を考えよう
42	2018年6月20日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立簡賀小学校	小3・4	河本 聖志	その他	スモールサポートプロジェクト
43	2018年6月20日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	岩国市立岩国中学校	中2	山本 浩二	その他	日本人の知らない日本の良さ
44	2018年6月21日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	小1	清水 忍	社会	元寇
45	2018年6月21日	ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会	浜田市立倉橋中学校	教員向	宮岡 英明	その他	危機管理(不審者対応)研修用のジグソー
46	2018年6月21日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小4	大塚 美佳	算数	垂直・平行と四角形
47	2018年6月21日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小2	堀 早雪	国語	ふろしきとどんぬめ
48	2018年6月21日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小3	山田 和月	社会	わたしたちの市の様子
49	2018年6月21日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小5	飯元 美穂	社会	秋どりのあそび
50	2018年6月21日	浜田市教育委員会	浜田市立徳成中学校	中3	星 千江子	その他	音楽のよさをプレゼンテーションしよう
51	2018年6月21日	浜田市教育委員会	浜田市立徳成中学校	中1	芝田 博志	数学	文字の式
52	2018年6月22日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小3	上野 功代	理科	こま虫をそだてよう
53	2018年6月22日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小5	堀川 勝美	その他	ロロンゾの友達
54	2018年6月22日	浜田市教育委員会	浜田市立片島小学校	小3	松岡 智子	国語	ゆすげの小さな旅
55	2018年6月25日	埼玉県教育委員会	久喜市立江面第二小学校	小1・2	岡田 知華	その他	鑑賞「人形のゆめと目ざめ」
56	2018年6月25日	浜田市教育委員会	浜田市立倉橋中学校	中2	勝部 悠志	数学	式の計算 連立方程式の利用
57	2018年6月26日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中3	丸川 智	数学	平方根の加法
58	2018年6月26日	浜田市教育委員会	浜田市立徳成中学校	小5	藤崎 貴之	算数	わりわり算学習
59	2018年6月26日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中3	川野 浩二	数学	平方根の応用
60	2018年6月27日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中1	福山 富美	英語	Lesson3
61	2018年6月27日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中2	堀 早雪	国語	卒業ホームラン
62	2018年6月28日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小2	山崎 勝美	その他	ざりょうからひらめき
63	2018年6月28日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小6	木村 美佳	社会	江戸幕府
64	2018年6月28日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小2	岩本 浩輝	国語	ふろしきとどんぬめ
65	2018年6月28日	浜田市教育委員会	浜田市立片島小学校	小6	山田 美樹	国語	新聞の投書を読み比べよう
66	2018年6月28日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小3	岸 昌幸	算数	ひっくりかえしてたりひいたり
67	2018年6月28日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小5	島原 由利子	算数	合同な図形
68	2018年6月28日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小5	水谷 隆之	国語	二つのせつめいをくらべよう「ふろしき、どんぬめ」
69	2018年6月28日	竹田市教育委員会	竹田市立徳成中学校	中1	三浦 祐一	社会	世界の三大宗教
70	2018年6月29日	埼玉県教育委員会	越谷市立桜井小学校	小5	松澤 貴章	算数	合同な図形
71	2018年6月29日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小5	廣方 美央	国語	新聞記事を読み比べよう
72	2018年6月29日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小5	杉本 伊織	国語	米利のさんか地域
73	2018年6月29日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中2	小田 貴之	理科	化学変化と原子・分子
74	2018年6月29日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中1	福田 康彦	社会	世界の三大宗教
75	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小2	北村 麻乃子	その他	材料からひらめき
76	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小2	成瀬 隆臣	その他	材料からひらめき
77	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小4	藤本 有希	その他	よりよく習つたの生活
78	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小4	野崎 勇輝	その他	よりよく習つたの生活
79	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小6	児玉 正昌	その他	時評係
80	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	小6	諸見里 明美	その他	時評係
81	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	特支	花村 栄子・野見山 美田紀・末松 恵美	その他	楽しい親子活動にしよう
82	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立徳成中学校	中1	小山田 翔一	数学	文字の式
83	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中1	都瀬 友紀	その他	水泳
84	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中3	長瀬 健志	社会	エネルギー
85	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中2	松本 浩二	社会	産業の発達と幕府政治の動き
86	2018年7月2日	浜田市教育委員会	浜田市立岩山小学校	中1	高橋 直美	数学	文字の式
87	2018年7月3日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立簡賀小学校	小1	河本 聖志	算数	場所を表そう
89	2018年7月3日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町 T 授業	小6	片桐 克敏	その他	あなたは家や地域の宝物
90	2018年7月3日	ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会	浜田市立倉橋中学校	中3	宮岡 英明	数学	2 進法
91	2018年7月4日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立簡賀小学校	小2	河本 聖志	算数	時刻と時間

表6:平成30年度「新しい学びプロジェクト」に関する協調学習の公開研究授業等一覧(1/6)

平成30年度活動報告書 第9集

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	教材作成者	教科	内容
92	2018年7月4日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中3	五島 晴人	理科	水溶液とイオン
93	2018年7月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小5	林田 渉	社会	水産業のさかんな地域
94	2018年7月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小6	三浦 由梨	理科	月と太陽
95	2018年7月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中1	山本 章忠	国語	オオカミを見る目
96	2018年7月5日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	憲政改革
97	2018年7月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚東小学校	小2	森尾 武	国語	ふろしきほどんぬの
98	2018年7月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小6	桑岡 貴志	社会	全国統一への動き
99	2018年7月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小2	海老原 聖葉	算数	買えますか？買えませんか？
100	2018年7月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小1	伊藤 美悠子	算数	いろいろなカタチ
101	2018年7月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小1	岡村 純子	国語	どうやってみまもるのかな
102	2018年7月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内小学校	小3	齊藤 久美子	その他	真心をもって
103	2018年7月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中1	清水 弘弘	その他	製図
104	2018年7月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小6	栗原 美紀	国語	文章を読んで自分の考えをまとめよう
105	2018年7月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中2	渡崎 亜希奈	数学	連立方程式
106	2018年7月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中2	井上 穂奈	その他	食品の選択
107	2018年7月9日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中2	留岡 和也	社会	日本の資源・エネルギーと電力
108	2018年7月9日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中1	野間勇一郎	理科	物の浮き沈みと密度
109	2018年7月9日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中3	渡 千鶴	その他	より良い仲間作りのために
110	2018年7月10日	ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会	長門市立倉部中学校	中3	宮前 美明	数学	平方根の利用
111	2018年7月10日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中2・中1	松本 恵理子	その他	飛べないワタル
112	2018年7月10日	九重町教育委員会	九重町立南山田小学校	小6	柴田 美穂子	国語	「田とノリ」
113	2018年7月10日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立高田小学校	小4	松本 晴美	社会	くらしをささえる水
114	2018年7月10日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立戴屋小	中1	浅井 宏幸	その他	違うんだよ、健司
115	2018年7月11日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中3	丸山 智	数学	2次方程式の因数分解による解き方
116	2018年7月11日	高知県教育センター	高知県立高知南高等学校	高2	山地 卓	社会	大公開時代の始まり
117	2018年7月11日	高知県教育センター	高知県立高知南高等学校	高1	久川 恵	理科	遺伝子とその働き
118	2018年7月11日	高知県教育センター	高知県立高知南中学校	中3	久保田 志乃	その他	リズム・アンサンブルを楽しもう
119	2018年7月11日	飯塚市教育委員会	飯塚市立二瀬中学校	中3	福田 隆太郎	その他	体育理論「文化としてのスポーツの意義」
120	2018年7月11日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中1	安藤 千春	その他	リコー音楽
121	2018年7月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小1	田中 時代	その他	コロコロめりりん
122	2018年7月13日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	九州地方
123	2018年7月13日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中2	松本 恵理子	国語	敬語
124	2018年7月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中2	村松 良介	英語	夏休みの旅行プランを立てよう
125	2018年7月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中3	大津 リサ	英語	Energy and the Environment
126	2018年7月18日	東神楽教育委員会	東神楽町立東聖小学校	小3	饒 雄介	算数	条件に合った計算の式を考えよう
127	2018年7月18日	竹田市教育委員会	竹田市立竹田南部中学校	中3	多田 智哉	数学	2次方程式
128	2018年7月19日	高知県教育センター	高知県立高知南中学校	中3	上岡 涼太	社会	対立と合意、効率と公正
129	2018年7月27日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風中学校	中1	池水 明史	理科	生態系、食物連鎖
130	2018年8月20日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高1	山田 翔太	社会	キリスト教
131	2018年8月20日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高1	山崎 暢・阪口 卓也・北野 一希	数学	整数の性質(2005年度京都大学理系数学)
132	2018年8月21日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高2	吉原 大二郎	数学	2016年京都大学入試問題
133	2018年8月21日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高2	木田 忍	理科	熱力学
134	2018年8月21日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高2	佐藤 俊史・奈良崎 友輝・森田 隆	その他	修学旅行のテーマづくり(平和学習)
135	2018年8月21日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風中学校	中2	野田 あゆみ他	国語	時「生まれたかな」
136	2018年8月28日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風中学校	中3	近藤 泰之	その他	防災について考えよう
137	2018年8月31日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立戸内河内小学校	小6	片桐 敏敏	算数	比と比の値
138	2018年8月31日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	永井 孝直	その他	家具とアート
139	2018年9月1日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高2	佐藤 俊史	社会	選挙制度
140	2018年9月1日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	中2	野口雅宏	社会	ペリー来航ー開国の是非
141	2018年9月3日	埼玉原教育委員会	埼玉原立桜井小学校	小5	羽島 香織	道徳	手品師
142	2018年9月3日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中1	清本 忍	社会	応仁の乱
143	2018年9月4日	ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会	長門市立倉部中学校	中1	藤原 文	その他	作られた魂を見とれ！〜クリスティナーの世界
144	2018年9月5日	ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会	長門市立倉部小学校	小3	重岡 知希	算数	時間と長さ
145	2018年9月6日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	中国・四国地方
146	2018年9月7日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1・2	白田 隆亮	化学基礎	化学結合
147	2018年9月11日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中2	小田 貴之	理科	行動のしくみ
148	2018年9月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小4	小島 恵美子	国語	広告と説明書を読みくらべよう
149	2018年9月13日	埼玉原教育委員会	春日部市立幸楽小学校	小6	佐藤 真晴	理科	てこのしくみとはたらき
150	2018年9月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小5	林田 渉	社会	これからの食料生産
151	2018年9月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小4	上村 保志	理科	星や月(2)
152	2018年9月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小6	齊藤 雄志	体育	腕立箱
153	2018年9月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立大分小学校	小6	伊藤 千穂子	社会	日本の歴史ー新しい時代の夜明け
154	2018年9月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立高田小学校	小6	藤下 和聡	社会	藩政の政治人々への暮らし
155	2018年9月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小4	西岡 美雪	国語	広告と説明書を読みくらべよう
156	2018年9月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	甲斐田 稔	数学	一次関数
157	2018年9月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	大戸 小夏	数学	二次方程式の利用
158	2018年9月14日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	中3	長田 里恵	英語	持続可能な開発
159	2018年9月18日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高2	白田 隆亮	化学	気体の状態方程式
160	2018年9月18日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	五味 龍作	化学基礎	相対質量
161	2018年9月18日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高2	小林 大輔	日本史	鎌倉幕府の滅亡
162	2018年9月19日	東神楽教育委員会	東神楽町立東聖中学校	中1	飯塚 達己	家庭	習字をつくろう
163	2018年9月19日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	開国
164	2018年9月19日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清本 忍	道徳	遠足前ジグソー
165	2018年9月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小6	日高 真由美	算数	速さ
166	2018年9月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小1	松下 美香	国語	かいら
167	2018年9月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小6	川崎 昌子	英語	what time do you get up
168	2018年9月19日	九重町教育委員会	九重町立野上小学校	小2	池部 聖崇	国語	「わにのおじいさんのたからもの」
169	2018年9月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小1	宮本 麻由	算数	おききくらべ
170	2018年9月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小4	神野 和佳子	国語	広告と説明書を読みくらべよう
171	2018年9月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小5	木吉 優子	社会	これからの食糧生産
172	2018年9月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸楽小学校	小4	坂口 由英	国語	ごんきつね
173	2018年9月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小4	武田 京子	国語	人物の変化をとらえよう
174	2018年9月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立大分小学校	小1	上野 奈美	その他	なかくらなろうね 小さな ともだち
175	2018年9月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋木小学校	小3	八江 慶子	その他	ドッジボール大会
176	2018年9月21日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	石井 芳直	数学	カレンダー
177	2018年9月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小3	井上 美穂	算数	円と球
178	2018年9月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小5	赤間 恵美	社会	これからの食糧生産
179	2018年9月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小5	中川 智子	その他	食べて元気 ご飯とみそ汁
180	2018年9月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中1	尾崎 孝大	数学	一次方程式
181	2018年9月25日	埼玉原教育委員会	久喜市立江南第二小学校	小5・6	坂本 翔	その他	全日本ライにレフトライ(ボール運動)
182	2018年9月25日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立戸内河内小学校	小1	中村 可南子	算数	水のかさ
183	2018年9月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小5	中田 泰幸	社会	これからの食糧生産
184	2018年9月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立大分小学校	小2	松尾 龍志	国語	言い伝えられてきたお話を知ろう
185	2018年9月25日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	中2	西澤 茂	理科	細胞呼吸
186	2018年9月26日	埼玉原教育委員会	埼玉原立桜井小学校	小6	八田 正登	体育	ハードル走
187	2018年9月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小4	藤方 辰史	理科	季節と生き物
188	2018年9月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小2	西谷 美由紀	その他	ざいりょうからひらめき
189	2018年9月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小3	山本 さよみ	算数	円と球
190	2018年9月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸楽小学校	小6	桂 薫	算数	速さ
191	2018年9月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中1	今中 直子	英語	家族や友達を紹介しよう「家族の写真」
192	2018年9月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	吉富 英夫	社会	欧米の進出と日本の開国
193	2018年9月27日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	岩国市立岩国西中学校	中1	中尾 葵	その他	不明
194	2018年9月27日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	岩国市立岩国西中学校	中3	福多 健二	その他	不明
195	2018年9月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小5	赤尾 恒平	社会	これからの食糧生産
196	2018年9月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸楽小学校	特文	桑原 ゆか・伊藤 朋子・福澤 佳奈	その他	ふわふわ言葉とちくちく言葉
197	2018年9月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋木小学校	中3	津田 圭太郎	その他	パレーボール
198	2018年9月28日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	山根 崇	国語	「大人になれなかった弟たちに……」
199	2018年9月28日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立筒賀小学校	小1・2	河本 聖志	その他	どんなとらがああないかなーじしんがおきたら？ー

表7：平成30年度「新しい学びプロジェクト」に関する協調学習の公開研究授業等一覧(2/6)

第1章 連携事業の展開

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	教材作成者	教科	内容
200	2018年9月28日	せらにし教育研究会	世羅町立世羅西中学校	中2	藤原 康治	国語	「扇の的」
201	2018年9月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根須小学校	小2	熊谷 彰	その他	ざいりょうからひらめき
202	2018年9月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小3	深町 優人	算数	かかれた数はいくつ
203	2018年9月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	特立	野中 由佳	社会	現代の民主主義
204	2018年9月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	平山 聖子	その他	合戦曲の合う表現をしよう
205	2018年9月30日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	維新の三大改革
206	2018年10月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋中学校	中2	平尾 智美	国語	古典
207	2018年10月1日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高3	水越 健太郎	英語	センター試験英語準記第6問
208	2018年10月1日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高2	倉嶋 亮栄	古典	「大和物語」「源氏」から、扇裕伝説を考える。
209	2018年10月1日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	前川 文秋	現代文	言葉とは何か
210	2018年10月1日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	小山 千絵	英語	伝説文化
211	2018年10月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根須小学校	小3	太田 千絵	算数	門立球
212	2018年10月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根須小学校	小2	熊澤 希	その他	ざいりょうからひらめき
213	2018年10月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小5	三木 渉	社会	自動車作りにほげむ人
214	2018年10月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中1	原 聡志	社会	アフリカ州
215	2018年10月3日	高知県教育センター	高知県立高知南高等学校	高1	池川 潤也	理科	モル濃度
216	2018年10月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	松岡 香苗	その他	規則の尊重
217	2018年10月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立二瀬中学校	中1	藤田 華入	その他	情報セキュリティと情報モラル
218	2018年10月4日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	田邊 匡	数学	1次関数の利用
219	2018年10月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根須小学校	小4	高橋 彰花	その他	拍の深れいひつてリズムを感じ取ろう(2)
220	2018年10月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根須小学校	小2	池田 七華	その他	ざいりょうからひらめき
221	2018年10月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小5	桂 美智代	国語	注文の多い料理店
222	2018年10月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小2	高尾 真弓	算数	三角形と四角形
223	2018年10月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中2	村松 良介	英語	to不定詞を用いて夢を発表しよう
224	2018年10月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小2	手嶋 秀子	算数	三角形と四角形
225	2018年10月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5	有門 涼	社会	自動車づくりにほげむ人々
226	2018年10月5日	九重町教育委員会	九重町立山田小学校	小2	柴田 美穂子	国語	「わのおじいさんのたからもの」
227	2018年10月8日	OB等	南風原町立南風原中学校	中2	玉城 亮	国語	伝説を見つめよう 古文「教諭の最後ー平家物語ー」
228	2018年10月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根須小学校	小2	津村 直美	算数	えんぴつのみつをみつけたよ
229	2018年10月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	花元 真太郎	算数	かたづけよう
230	2018年10月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	特立	徳永 康幸・内倉 奈美	国語	気持ちを文に書き表そう
231	2018年10月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小2	小山 珠美	算数	三角形と四角形
232	2018年10月11日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	近畿地方
233	2018年10月11日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚東小学校	小6	宮本 義信	理科	水溶液の性質
234	2018年10月11日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小1	鶴 優子	算数	おききさくらべ
235	2018年10月11日	飯塚市教育委員会	飯塚市立八木山小学校	小3・4	川原田 佳世	算数	3年「あまのいあるわり算」4年「2けたでわるわり算」
236	2018年10月11日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中3	川野 清三	数学	関数
237	2018年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中2	水安 優子	英語	不明
238	2018年10月12日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	大塚 優子	英語	Living with Robots - For or Against
239	2018年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚東小学校	小3	大塚 英央	理科	豆電球に明かりをけよう
240	2018年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小4	高橋 亮	その他	ないた赤おに
241	2018年10月12日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高2	小林 大騎	日本史	維新の新政
242	2018年10月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立二瀬中学校	中1	土師 雄大	理科	物質のすがた
243	2018年10月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中3	濱内 徹	理科	生態系での食物連鎖
244	2018年10月16日	鶴谷市教育委員会	鶴谷市立立根小学校	小3	江森 友	社会	わたしたちのくらしと商店
245	2018年10月16日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中3	留塚 和也	社会	新聞を読み比べよう
246	2018年10月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚東小学校	小6	腕原美田紀	理科	水溶液の性質
247	2018年10月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根須小学校	小3	在崎 智子	理科	太陽の動きと地面のようすを調べよう
248	2018年10月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小6	岸 絵理	理科	月と太陽
249	2018年10月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小4	小林 悦子	社会	わたしたちの思のまじり
250	2018年10月16日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立立根小学校	小5	井筒 裕一	社会	これらの食料生産と食生活
251	2018年10月16日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立立根小学校	小4	西田 久子	理科	複合図形の面積の求め方
252	2018年10月16日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立立根小学校	中2	藤本 正徳	理科	動物の生活と生物の進化
253	2018年10月17日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	二宮 恵佑	社会	関東地方
254	2018年10月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小5	塚元 美奈子	その他	手品師
255	2018年10月18日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立立根小学校	小6	大前 美果	算数	算数の経験を生かそう
256	2018年10月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小3	津村 一志	理科	太陽の動きと地面のようすを調べよう
257	2018年10月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小6	岸 絵理	社会	家であそびたてよう
258	2018年10月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小4	長谷 恵美	算数	面積
259	2018年10月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小6	柴山 淳	社会	解散令
260	2018年10月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中2	山野 靖也	数学	一次関数
261	2018年10月18日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	白田 隆亮	化学基礎	光合成
262	2018年10月18日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立立根中学校	中2	財前 由紀子	国語	「ネアヒは語る」
263	2018年10月19日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中1	清本 忍	社会	アフリカ州
264	2018年10月19日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立立根小学校	中3	原田 優次	理科	扇形と円
265	2018年10月19日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中3	伊藤 暁	数学	立方関数の利用
266	2018年10月19日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立立根小学校	中1	伊藤 優次子	その他	扇形と円
267	2018年10月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小6	岸井 文子	理科	水溶液の性質
268	2018年10月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚東小学校	小4	増本 純文	その他	旅路の特徴を感じよう
269	2018年10月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小1	和田 直子	国語	おはなしをよもう「サラダでげんき」
270	2018年10月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	大丸 公平	理科	消化と吸収ーハイナルゼリーが固まらない理由を説明しようー
271	2018年10月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中2	遠崎 亜希奈	数学	一次関数
272	2018年10月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中3	清川 哲也	数学	二次関数
273	2018年10月23日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚東小学校	小3	高橋 亮	その他	旅路の特徴を感じよう
274	2018年10月23日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小6	小野 正太	理科	水よう液の性質
275	2018年10月23日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	飯原 真也	英語	Lesson5 Career Experience
276	2018年10月23日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中3	大津 健志	理科	化学変化とイオン
277	2018年10月23日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根中学校	中1	福山 富美	英語	〇〇さんを紹介しよう
278	2018年10月24日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中3	永井 孝直	その他	美術はいつも暮らしの中に
279	2018年10月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	山田 清美	その他	よりよい食生活を目標して
280	2018年10月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	田中 栄一	その他	漢語表現の豊かさ
281	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小1	松下 美香	国語	のりものこのことをしらべよう「いろいろなふね」
282	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小1	宮本 麻由	算数	たしざん(2)
283	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小2	後藤 昌樹	国語	どよふつのひみつをみんなできごろう「ピーパーの大仕事」
284	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小2	海老原 聖美	算数	かけ算
285	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小2	大塚 美佳	国語	どよふつのひみつをみんなできごろう「ピーパーの大仕事」
286	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小3	松岡 智子	国語	感想を伝え合おう「サーカスのライオン」
287	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小3	井上 久美	算数	三角形
288	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小4	安田 久美子	国語	感想を伝え合おう「ごんぎつね」
289	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小4	大塚 みゆき	算数	面積
290	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小5	高野 裕美	国語	物語のよさを解読しよう「注文の多い料理店」
291	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小5	竹田 大地	算数	面積
292	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小6	山田 美樹	国語	物語を読んで考えを深めよう「海の中の」
293	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小6	日高 真由美	算数	立体の体積
294	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小3	大井 昌美	その他	わたしの見たニッポン
295	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小1・2	斎藤 千香	算数	1年「おききさくらべ(1)」2年「かけ算(1)」
296	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小3	岸 昌幸	国語	詩を読もう
297	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根小学校	小3	山口 祐一	社会	働くとわたしたちのくらし
298	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中1	石橋 信之	数学	変化と対応
299	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中1	山口 和樹	数学	変化と対応
300	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中1	島居 光希	その他	扇形の出現
301	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中1	飯田 友則	社会	アフリカ州(地理的分野)
302	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中1	松宮 央	国語	伝説文化に隠れる「竹取物語」
303	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中1	飯見 祐樹	理科	物質のすがた
304	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中1	島田 莉帆	国語	伝説文化に隠れる「竹取物語」
305	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中2	清水 慶	理科	生物の生活と生物の進化
306	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立根第一中学校	中2	石坂 未央	その他	傷害の防止「交通事故の現状と要因(保健分野)」

表8：平成30年度「新しい学びプロジェクト」に係る協同学習の公開研究授業等一覧(3/6)

平成30年度活動報告書 第9集

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	教材作成者	教科	内容
307	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中2	大塚 勝正	社会	関東地方(地理的分野)
308	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中2	町野 美和	その他	あなたは職業を提呈しますか
309	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中2	東 弘平	社会	関東地方(地理的分野)
310	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中2	浦田 将輝	その他	図形の調べ方
311	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中3	平山 結太	その他	漫画表現の豊かさ(鑑賞)
312	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中3	山本 芳恵	その他	卒業文集最後の二行
313	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中3	上尾 智美	国語	伝記文化に親しむ「おくのほそ道」
314	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中3	桑岡 健司	数学	図形と相似
315	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中3	松尾 光理	英語	Chapter7尊敬する人についてスピーチしよう
316	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中3	世取 穂香	国語	伝記文化に親しむ「おくのほそ道」
317	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	山本 幸一	その他	情報を安全に利用しよう
318	2018年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	石川 晃彦	理科	中中でイオンを考えよう
319	2018年10月25日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高2	白田 隆光	化学	「気体の溶解度」 塩酸酸を作るにどうしたらよいか?
320	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小6	石川 和佳	その他	日本と世界の音楽を親しもう
321	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5	宮原 浩美	算数	面積
322	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小2	小田切 泰子	国語	名前を見てちょうだい
323	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小2	北村 嘉乃子	国語	ピーバーの次こうじ
324	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	武内 剛作	その他	バーボール
325	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	山本 幸恵	国語	竹取物語
326	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	大津 リサ	英語	面白いお土産の紹介しよう
327	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	河野 桂志	社会	死ぬ瞬間を臨むべきか
328	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	江口 幸一	算数	うさぎとめ Part2 (比例、反比例、グラフの活用)
329	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	渡部 公比古	理科	光の屈折(滑らか10円玉)
330	2018年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	佐藤 雅司	その他	睡眠と健康
331	2018年10月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小4	高富 朋美	理科	季節と生き物(秋)
332	2018年10月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中1	安武 結子	理科	物質のすがた(水溶液)
333	2018年10月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	藤原 友紀	その他	生活習慣病とその予防
334	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小2	野田 利恵	算数	かけ算
335	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小4	深町 まなみ	その他	化学変化と電池
336	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中1	福山 晃広	その他	器機運動(マツコ運動)
337	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	吉村 由希	英語	尊敬する人についてスピーチしよう
338	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中1	高橋 直美	数学	変化と対応
339	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中1	松本 宗太	社会	古代国家の歩みと東アジア世界
340	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中1	井上 沙紀	理科	物質のすがた
341	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	井上 伊都子	英語	旅行の計画を立てよう(応用編)
342	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	久富 美奈	国語	枕草子
343	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	服部 佳祐	数学	二次方程式の利用
344	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	沼崎 健太郎	理科	化学変化と電池
345	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	石山 忠孝	英語	インタビューをしよう
346	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	杉 育江	理科	「Rt」とは何か
347	2018年10月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	梅津 あゆみ	理科	金星の見え方
348	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	勝部 厚志	数学	未定
349	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	坂本 有美	国語	万葉・古今・新古今(1時間目)
350	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	武山 亮子	その他	地域の食文化を生かした調理をしよう
351	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	五島 映人	理科	天体の動きと地球の自転・公転
352	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	岡松 浩平	理科	電気の通り道
353	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中1	坂口 湧子	社会	ヨーロッパ州
354	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	前野 直美	その他	図形分野
355	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	菅原 利一	その他	切り紙
356	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	山本 竜二	その他	喫煙と健康
357	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	小野山 貴浩	その他	喫煙と健康
358	2018年10月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	高1	両角 文秋	古典	竹取物語
359	2018年11月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	城丸 真実恵	その他	かぞくにごにこごさくせん
360	2018年11月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	清水 聡子	理科	ものごとのまわり方
361	2018年11月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小3	藤原 彩人	算数	重さ
362	2018年11月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中1	福田 健彦	社会	鎌倉幕府と室町幕府
363	2018年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	坂内 英樹	国語	「稲作産」
364	2018年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	若田 秀子	その他	夜の探偵
365	2018年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中3	山野 麻城	その他	未定
366	2018年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中3	田頭 貴代子	社会	働く人とわたしたちのくらし
367	2018年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小3	矢野 優大	算数	重さ
368	2018年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	山崎 智子	英語	京都のおもしろい観光地を英語で紹介しよう
369	2018年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中3	山口 由紀子	その他	絵本のイメージに合った旋律をつくろう
370	2018年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中3	河野 勝	社会	私たちの暮らしと経済「生産と労働」
371	2018年11月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中3	坂本 有美	国語	万葉・古今・新古今(2時間目)
372	2018年11月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	高1	高橋 竜二	数学	場合の数(重複組合せ)
373	2018年11月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小3	白上 那矢子	理科	浮遊球に浮かぶものを飛ばそう
374	2018年11月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5	内村 亮太	国語	相対化について調べよう
375	2018年11月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	原田 慶介	国語	感動の中心をとらえよう「海のいのち」
376	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	松本 誠之	算数	面積
377	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	大谷 しずほ	理科	大きさ比べ(1)
378	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	藤本 有希	理科	ものごとのまわり方
379	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5	杉本 伊織	社会	工業生産を支える人々
380	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	松本 智美	その他	絵はがきと切手
381	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中1	井島 剛	社会	古代までの日本
382	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中3	藤 亨子	国語	放蕩
383	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	高橋 美穂子	国語	伝記文化に親しむ「枕草子」
384	2018年11月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	高2	小宮山 悠菜	現代文	現代詩
385	2018年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小2	藤原 彰	算数	掛け算②
386	2018年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5	小林 共子	算数	面積
387	2018年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	児玉 正昌	理科	てこのはたらき
388	2018年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	角瀬 晶子	算数	ひざん(2)
389	2018年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	岩佐 尚史	国語	感動の中心をとらえよう「海のいのち」
390	2018年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中3	梶原 浩司	社会	三権分立と国民の自由
391	2018年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	合原 広美	その他	弘徳義塾
392	2018年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中1	尾上 千春	その他	藤原「教員美術展」花の生命
393	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	3年	藤原 清美	保健体育	生活習慣病の予防
394	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	西川 泰夫	社会	明治の新しい国づくり
395	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5・6	宮井 健作	社会	工業生産とわたしたちのくらし
396	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	上道 賢太	数学	三角形の合同
397	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	一角 憲宏	理科	空気中の水の変化
398	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	小田 貴司	理科	曇るでき方
399	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	谷口 邦子	体育	病気の予防
400	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	今野 由美	算数	大きさ比べ(1)
401	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5・6	松浦 志織	その他	まかせておぼえの食事
402	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	田中 時代	その他	あきとらぬらになろう
403	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	野崎 穂輝	社会	わたしたちの服のまちづくり
404	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	諸見里 明美	算数	比例・反比例
405	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	大塚 香奈	算数	かたづけり
406	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	池水 大輔	数学	一次関数
407	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中1	井上 徳栄	その他	住居の機能と住まい方
408	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	村上 浩二	理科	海陸風
409	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中1	田中 陽子	その他	詩の内容と曲想とのかわりを感じ取ろう
410	2018年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中3	藤村 智宏	国語	鶴の帰郷
411	2018年11月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中1	清水 志	社会	ヨーロッパ州
412	2018年11月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	中2	藤本 志	社会	中部地方
413	2018年11月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小2	尾上 泰子	算数	大きさ比べ(1)

表9：平成30年度「新しい学びプロジェクト」に関する協調学習の公開研究授業等一覧(4/6)

第1章 連携事業の展開

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	教材作成者	教科	内容
414	2018年11月12日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	中3	西澤 茂	理科	「四季の星座」天体の動きを地球の自転・公転と関連付けてとらえる。
415	2018年11月13日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	末本 星子	その他	曲の構成を理解して、曲想を味わおう
416	2018年11月13日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中2	西村 麻衣子	その他	混声三部合唱「You Can Fly」
417	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立乾田小学校	小2	野々上 祐	その他	交通安全について考えよう
418	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小1	伊藤 美穂子	算数	かたちづくり
419	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小1	相田 直子	国語	いろいろふね
420	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	小3	中西 昌美	その他	三味のかき
421	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小3	原田 つかさ	その他	切って かき出し かつつけてみよう
422	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小5	桂 美智代	社会	これからの食料生産
423	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小6	齊藤 雄志	その他	マット運動
424	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	井嶋 大輔	国語	多面的に検討する「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」
425	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中1	高井 道恵	国語	伝統文化に触れる「伊曾保物語」
426	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中2	須藤 剛之	理科	電流とそ利用「電流と磁界」
427	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中2	山野 靖也	数学	図形の調べ方「多角形の角」
428	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中3	安永 春樹	国語	「観察・分析して論じよう 批評文」
429	2018年11月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中2	久田 拓朗	その他	未定
430	2018年11月14日	高知県教育センター	高知県立高知南中学校	中2	久方 真央	国語	【レモン哀歌】
431	2018年11月14日	高知県教育センター	高知県立高知南中学校	中2	原田 英明	数学	未定
432	2018年11月14日	高知県教育センター	高知県立高知南高等学校	高1	諏訪 敏樹	数学	未定
433	2018年11月14日	高知県教育センター	高知県立高知南高等学校	高2	長野 いづみ	その他	「安全な医薬品」とはどんな医薬品か？
434	2018年11月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小1	増田 泰子	国語	のもののことをしらべよう
435	2018年11月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小1	篠原 朝代	国語	おはなをよもう「サラダでげんき」
436	2018年11月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋中学校	中2	平尾 智美	国語	伝統文化を楽しむ
437	2018年11月15日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風中学校	中2	野田 あゆみ	その他	二浦の手紙
438	2018年11月15日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清本 忍	道徳	本町の幸せとは
439	2018年11月15日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立高貴小学校	小2	河本 聖志	国語	かかなくもくことば
440	2018年11月15日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立高貴小学校	小5	田村 麗子	社会	工業生産とわたしたちのくらし
441	2018年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小5	服部 心子	その他	秋と友達
442	2018年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小3	大塚 亜衣	算数	重さ
443	2018年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小1	石川 身季	国語	のもののことをしらべよう
444	2018年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	小西 幸恵	その他	かたちやいろのせかい
445	2018年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小3	溝上 康太	社会	働く人とわたしたちのくらし
446	2018年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小1	早瀬 博美	国語	おはなをよもう「サラダでげんき」
447	2018年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小1	小野 結美	算数	かたちづくり
448	2018年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小1	大村 素子	算数	おおきくらべ1
449	2018年11月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	中1	坂本 有美	国語	未定
450	2018年11月16日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中2	伊藤 謙	数学	水筒数
451	2018年11月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小3	大隈 美央	理科	豆電球に輝かりをつけよう
452	2018年11月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小1	花元 和代	国語	のもののことをしらべよう
453	2018年11月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中3	一倉 美佐江	国語	和紙の鑑賞文を書こう
454	2018年11月16日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1・2	日田 隆亮	化学基礎	質量パーセント濃度とモル濃度
455	2018年11月17日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中1	坂本 有美	国語	伊曾保物語
456	2018年11月17日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	坂本 有美	道徳	言葉の向こうに
457	2018年11月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小3	瓜生 右穂子	社会	働く人とわたしたちのくらし
458	2018年11月19日	飯塚市教育委員会	久保町立江崎第二小学校	小5	江谷 敏夫	国語	「天邊じいさんとガン」
459	2018年11月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小3	田村 夕生那	その他	げんこうな生活
460	2018年11月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	西園 雅典	その他	平和で豊かな暮らしを目指して
461	2018年11月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立二瀬中学校	中2	野見山 進	理科	生命を維持するはたらき
462	2018年11月20日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中1	清本 忍	社会	北アメリカ州
463	2018年11月20日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	帝国議会開設
464	2018年11月20日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	岡崎 英雄	社会	リール3機分図をつくろう
465	2018年11月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小1	瓜生 素子	算数	おおきくらべ
466	2018年11月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	末次 一恵	算数	おおきくらべ
467	2018年11月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小3	松原 亜紀	算数	重さ
468	2018年11月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	特文	佐村 幸子・野見山 美由紀・末松 忠美	その他	校外学習へ行こう
469	2018年11月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立二瀬中学校	中3	江藤 幸司	国語	伝統文化に触れる「漢文」
470	2018年11月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩中学校	中2	小田 貴之	理科	電流と磁界
471	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	中2	小林 和樹	国語	【論理を捉えて】
472	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	中1	遠藤 正樹	社会	「世界の諸語域 南アメリカ州」
473	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	中2	中嶋 康雄	数学	【二次関数の利用】
474	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	小嶋 淳	理科	【身近な物理現象】	
475	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	中3	江口 圭介	英語	【In for a better World】
476	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	不明	氏家 智美	音楽	【表現豊かな混声合唱を創ろう】
477	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	不明	羽島 弘次	美術	【人の形にこめた術】
478	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	不明	森田 順敬	保健体育	武道【柔道】
479	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	川口市立戸塚中学校	不明	高野 一男	D情報・技術・家庭	D情報に関する技術「デジタル作品の制作と発表」
480	2018年11月21日	埼玉県教育委員会	越谷市立桜井小学校	小5	羽島 香織	社会	これからの食糧生産
481	2018年11月21日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中1	須家 早子子	音楽	気持ちや情景を音楽で表すための工夫を見つけてよう
482	2018年11月21日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清本 忍	道徳	真の友情とは
483	2018年11月21日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小3	清本 祐平	算数	全体と部分に目をつけて
484	2018年11月21日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小5	清本 孝久	理科	ふりこのきまり
485	2018年11月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小5	松本 悠樹	算数	単位量あたりの大きさ
486	2018年11月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5	竹内 ほのか	その他	威風堂々 第一番
487	2018年11月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小4	平田 文世	社会	健康なくらしとまちづくり「くらしと電気」
488	2018年11月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小5	鹿子嶋 舞佳	その他	めざそう買人物名人
489	2018年11月21日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	田村 綾乃	英語	フットマイル運動
490	2018年11月22日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	原田 優次	その他	卒業文集最後の二行
491	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小4	岩本 真由美	理科	季節と生き物（秋）
492	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小2	中嶋 英里	国語	かさこじぞう
493	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小6	山田 光祐	算数	立体の体積
494	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳島東小学校	小2	本多 優	その他	作ってためて
495	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳島東小学校	中3	石田 昇一	算数	重さ
496	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳島東小学校	小6	中嶋 雄三	社会	平和で豊かな暮らしを目指して
497	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小2	宮原 安彦	算数	三角形と四角形
498	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立高田小学校	小2	中山 雅子	算数	かけ算2
499	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中3	堤 千江子	その他	日本の伝統芸能
500	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳島東中学校	中1	田中 早紀	社会	聖徳太子の政治改革
501	2018年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳島東中学校	中3	松本 登代子	その他	鑑賞～短編アニメーションを通して～
502	2018年11月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小2	藤生 順子	算数	三角形と四角形
503	2018年11月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小2	山田 昌恵	算数	三角形と四角形
504	2018年11月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中3	山田 誠一	その他	鑑賞「東へ西へ」
505	2018年11月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	特文	飯嶋 昌美・中山 真子・佳海	その他	楽しいなかよしパーンにしよう
506	2018年11月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	小中 剛	その他	プログラミングにチャレンジしよう
507	2018年11月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小2	水谷 隆之	算数	三角形、四角形
508	2018年11月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小2	竹下 かつり	算数	三角形と四角形
509	2018年11月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立二瀬中学校	中3	神野 明志	数学	図形と相似
510	2018年11月28日	埼玉県教育委員会	越谷市立桜井小学校	小5	羽島 香織	理科	流れる水の働き
511	2018年11月28日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清本 忍	道徳	愛校心
512	2018年11月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	特文	福澤 佳奈	その他	クリスマス会をしよう
513	2018年11月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小2	角瀬 忠	算数	三角形と四角形
514	2018年11月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立二瀬中学校	中2	伊藤 雅章	保健体育	保健分野 応急手当の意義と基本（心臓蘇生法）
515	2018年11月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳島西中学校	中3	日高 元成	その他	生物で関する新しい技術の開発
516	2018年11月28日	OB等	江府町立江府小学校	中3	黒見 真由美	国語	世界の物語をしようかしよう「ほりねむと金貨」
517	2018年11月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小2	佐藤 祐子	その他	みほんちゃんとどろのせきのますだくん
518	2018年11月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小3	柴田田 莉子	理科	もの重さを調べる

表10：平成30年度「新しい学びプロジェクト」に関する協調学習の公開研究授業等一覧（5/6）

平成30年度活動報告書 第9集

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	教材作成者	教科	内容
519	2018年11月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立一瀬中学校	中3	苗田 美加	英語	L6 Interesting Languages
520	2018年11月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中1	雨森 明美	国語	竹取物語
521	2018年11月30日	湯浅町教育委員会	湯浅町立湯浅小学校	小5	小原 朋紀	算数	単位量あたりの大きさ
522	2018年11月30日	浜田市教育委員会	浜田市立金城中学校	中2	永安 裕子	国語	古典 徒然草
523	2018年11月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鮎田小学校	小6	松尾 多輝子	その他	ベッター君のプログラムプログラミングをしよう
524	2018年11月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小3	美川 沙央里	社会	工場で働く人と仕事
525	2018年11月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立一瀬中学校	中1	山中 美紀	英語	Chapter 2 Project
526	2018年11月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中2	法橋 美貴	その他	住生活と健康
527	2018年11月30日	竹田市教育委員会	竹田市立竹田小学校	中1	水富 健太郎	理科	音の性質
528	2018年12月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小4	古賀 大福	理科	もの温度と体積
529	2018年12月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小1	池田 織菜	その他	きたかぜとあそぼう
530	2018年12月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小5	植 聡広	理科	ものとのけ方
531	2018年12月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小4	小出 博美	算数	面積
532	2018年12月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立一瀬中学校	中2	飯 智太	国語	話し合いで検討しよう
533	2018年12月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中3	大九 裕子	英語	言いたいことを英語で正しく伝えよう
534	2018年12月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中1	上田 毅	理科	光の性質
535	2018年12月4日	東神楽教育委員会	東神楽町立志栄小学校	小3	池田 謙治	算数	ちがいに目をつけて(線分図)
536	2018年12月4日	東神楽教育委員会	東神楽町立東神楽中学校	中1	大石 彩佳	英語	ウェブサイト
537	2018年12月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立旭中学校	中1	清本 忍	社会	南アフリカ州
538	2018年12月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小6	栗原 美紀	その他	ソフトボールボール
539	2018年12月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小4	小出 博美	理科	ものあたたまり方
540	2018年12月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中1	木村 典子	数学	変化と対応
541	2018年12月5日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清本 忍	道徳	いじめといり
542	2018年12月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊勢須小学校	小6	岩本 淳子	社会	わたしたちの暮らしを支える政治
543	2018年12月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立一瀬中学校	中3	松尾 康則	理科	天体
544	2018年12月6日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中1	小田 貴司	理科	鏡の反射
545	2018年12月6日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	日清戦争
546	2018年12月6日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清本 忍	社会	財政政策
547	2018年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊勢須小学校	小6	八幡 由里	社会	わたしたちの暮らしを支える政治
548	2018年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小2	副松 佳子	算数	かけ算(2)
549	2018年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小2	末松 和弘	算数	かけざん(まとも)
550	2018年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立八木山小学校	小5・6	山田 健太郎	算数	5年「順次と調べ」6年「式と計算」
551	2018年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西小学校	小6	鬼塚 恭平	算数	場合と順序をよく整理して
552	2018年12月7日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中1	植田 斉	数学	図形
553	2018年12月7日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中2	清本 忍	社会	日露戦争
554	2018年12月7日	浜田市教育委員会	浜田市立旭中学校	中3	清本 忍	社会	財政と税制度
555	2018年12月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小4	藤方 辰史	理科	ものあたたまり方
556	2018年12月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊勢須小学校	小6	田村 信子	社会	わたしたちの暮らしを支える政治
557	2018年12月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小6	田村 信子	その他	計画・制限
558	2018年12月10日	埼玉教育委員会	久喜市立江南第二小学校	小3	加藤 順子	その他	文字の配列を考えよう
559	2018年12月10日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中2	伊藤 慧	数学	図形の調べ
560	2018年12月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立一瀬中学校	中1	藤村 ゆかり	その他	国際的なスポーツ大会とその役割
561	2018年12月11日	九重町教育委員会	九重町立南山田小学校	小5	柴田 美穂子	国語	「雪だるま」
562	2018年12月12日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	五島 眺人	理科	水溶液
563	2018年12月12日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小3	清 祐斗	算数	円と球
564	2018年12月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小1	高口 陽子	その他	あきともだちになろう
565	2018年12月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立一瀬中学校	中1	熊伯 春恵	国語	ニュースの見方考えよう
566	2018年12月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中1	清水 忠次	その他	ダンス
567	2018年12月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中1	飯 佳子	数学	平面図形
568	2018年12月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中2	奥田 蓮太	社会	近代文化の形成
569	2018年12月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中1	松岡 琴音	英語	canの肯定・疑問文・否定文について
570	2018年12月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中1	吉田 佳代	英語	〇〇さんを紹介しよう
571	2018年12月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中3	田島 勝	社会	資源・エネルギー問題
572	2018年12月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中2	金子 政則	その他	エネルギー変換に関する技術
573	2018年12月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中3	安藤 千春	その他	創作
574	2018年12月15日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高1	立花 純之	数学	図形と計量 正弦定理と余弦定理
575	2018年12月18日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風中学校	中1	藤田 隆 穂崎 大輔・山中 素晴	社会	鎌倉時代の文化と宗教
576	2018年12月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中2	橋本 仁治	社会	顔面体制
577	2018年12月18日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立高田中学校	中1	財前 由紀子	国語	君は「最後の晩餐」を知っているか
578	2018年12月19日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風中学校	中3	仲井 寛	英語	仮定法
579	2018年12月19日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風中学校	中3	吉田 正	国語	「土佐日記」冒頭を考える
580	2018年12月19日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高2	吉田 和史	その他	生活習慣病とその予防
581	2018年12月19日	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高1	飯岡 泰典	国語	記述問題の解答作成法(2016年度東大入試)
582	2018年12月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小1	小野 良子	その他	あきともだちになろう
583	2019年1月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中3	毛利 翔	数学	方程式・関数の活用問題
584	2019年1月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鮎田小学校	小5	林田 渉	社会	自然災害とともに生きる
585	2019年1月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中2	安永 保之	その他	未定
586	2019年1月24日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立授業	小6	大久保 優	その他	気に入らなかつた写真
587	2019年1月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鮎田小学校	小2	中野 洗次郎	算数	九九のまじり
588	2019年1月25日	九重町教育委員会	九重町立ここえ緑陽中学校	中1	阿部 純一	社会	摂陽政治
589	2019年1月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中1	藤原 朋子	その他	消費生活
590	2019年2月8日	埼玉教育委員会	朝霞市立朝霞第二小学校	小4	伊藤 貴史	社会	郷土に伝わる昔の人々の頼り野火止大池に水を引く
591	2019年2月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小5	田中 洋子	その他	表現運動
592	2019年2月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小4	藤 辰史	その他	プログラミング学習
593	2019年2月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小6	栗原 美紀	国語	海の命(物語文)
594	2019年2月12日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中1	福子 智幸	その他	未定
595	2019年2月12日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中3	吹上 智幸	その他	未定
596	2019年2月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中1	福岡 由美子	その他	体つくり運動
597	2019年2月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	中1	月持 順	国語	話し合いで理解を深めよう グループ・ディスカッション
598	実施日不明	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	防府市立華陽中学校	中1	竹本 賢之	数学	話論・反比例の利用
599	実施日不明	有田川町教育委員会	有田川町立鮎田小学校	小6	生駒 真次	社会	明治の新しい国づくり
600	実施日不明	有田川町教育委員会	有田川町立吉備中学校	中2	宮本 綾	社会	平行情と新編
601	実施日不明	清風学園 清風中学校・高等学校	清風高等学校	高1	佐藤 俊史	社会	東大二次試験世界史の小問題にチャレンジ
602	実施日不明	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	丸山 智	数学	作図
603	実施日不明	宮崎県立都城ヶ丘高等学校付属中学校	都城ヶ丘高等学校付属中学校	高3	三重野 修	国語	「高瀬舟」
604	実施日不明	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	不明	丸山 智	数学	未定
605	実施日不明	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	丸山 智	数学	文字式の利用
606	実施日不明	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	神田 有香	英語	不定詞
607	実施日不明	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	永井 孝直	その他	題名を推理しよう
608	実施日不明	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	中2	長田 里恵	英語	Landmines and Aki Ra
609	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小4	高良 敬介	その他	読み稽
610	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小5	奈良道 優大	その他	「手品師」読実・明朗
611	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小5	白井 信一	その他	「手品師」読実・明朗
612	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中2	渡邊 俊浩	社会	未定
613	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中1	長濱 亮太	その他	バスケットボール
614	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中1	安永 宗孝	社会	不明
615	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中2	平山 貴博	数学	不明
616	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中2	金丸 勝子	理科	不明
617	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中2	小野 隆宏	国語	不明
618	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中2	吉野 雅恵	英語	不明
619	実施日不明	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳西中学校	中3	酒井 紀	英語	不明
620	実施日不明	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	中2	長田 里恵	社会	不明
621	実施日不明	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	中2	長田 里恵	英語	A calendar of the Earth
622	実施日不明	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	両角 文秋	古典	漢文の要約
623	実施日不明	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	両角 文秋	現代文	藤田門
624	実施日不明	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	両角 文秋	現代文	「顔」

表11:平成30年度「新しい学びプロジェクト」に関する協調学習の公開研究授業等一覧(6/6)

### (3) 今年度の成果と課題

#### ① 今年度の研究成果物

教科部会の取組として作成した各教科における授業デザイン原則は、本報告書第2部第1章第2節に収録されている。また、本報告書巻末のDVDには、今年度の本事業での実践例のうちデータの揃っているもの128含む、これまでの小中高での実践例2267について、授業案、教材、実践者の振り返りを収録している。あわせてご覧いただきたい。

#### ② 取組の状況

次に、研究推進員等の先生方へのアンケートを基に、この取組に関わる先生方が子どもが主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業をどのくらいの頻度で実施しているかを示す。

表12は、アンケートにお答えいただいた42名の先生方が「知識構成型ジグソー法」をどんな場面で、どんな教材を使ってどの程度実践されたかを示している。

平均すると、お一人あたり年間6.6回教材の「知識構成型ジグソー法」を実践しており、その内訳は新規開発教材より過去の教材の活用が多い。また、研究授業での実践は教材数としても全体の2割程度であり、日常的な活用が増えてきたことが伺われる。

表13にアンケート回答者の平均実践教材数の分布を示した。アンケート回収率が低いこともあり年度ごとの数値のばらつきが大きいですが、今年度は平均実践教材数が同程度だった一昨年度と比較しても「5～9教材」(=学期に2、3回程度実践)の層が厚くなっていることが特徴的である。また、今年度について言えば、この層の半数以上が取組に参加して3年以内の先生方であり、プロジェクト全体で見ると中間層の充実が伺われる。

「知識構成型ジグソー法」に関わらず子どもが主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業をどのくらいの頻度で実施しているかについては、7.1%(昨年度8.3%)が「ほぼ毎時間」、38.1%(同18.8%)が「半分以上」、23.8%(同33.3%)が「月に数回程度」、31.0%

	今年度新規教材 として開発	過去の教材を アレンジして活用	過去の教材を そのまま利用	計
研究授業で実施	0.9	0.3	0.1	1.4
研究授業以外で実施	1.6	1.1	1.3	4.1
今後実践を行う予定	0.5	0.3	0.4	1.2
計	3.0	1.8	1.8	6.6

表12：今年度の「知識構成型ジグソー法」の平均実践教材数 (N=42)

年度(回答者数)	平均教材数	10教材以上	5～9教材	3、4教材	2教材以下
28年度(N=32)	6.0	5名(15.6%)	6名(18.8%)	16名(50.0%)	5名(15.6%)
29年度(N=48)	3.9	3名(6.3%)	13名(27.1%)	18名(37.5%)	14名(29.2%)
30年度(N=42)	6.6	5名(11.9%)	19名(45.2%)	9名(21.4%)	9名(21.4%)

表13：過去3年間の「知識構成型ジグソー法」の平均実践教材数の分布

(同 39.6%) が「学期に数回程度」と回答し、「それ以外」の回答はなかった。こちらについても「半分以上」の割合が 18.6% から 38.1% と大きく向上しており、中間層の充実が伺える。

アンケートでは、子どもの学びの事実を基に授業づくりについて見えてきていることについて記述式で回答もお願いした。共に研究推進員 2 年目になる 2 名の例を挙げる。

	印象に残った学びの事実	事実を基に感じているポイント
A 先生 (中学校国語)	ジグソーの授業を行う中でよくあることだが、 ○エキスパート活動において、さらっと考えてほしい所に必要以上に悩んだり、教師が想定していなかった部分で躓いたり、さらには想定外の答えを書いたりする。 ○ジグソー活動ではホワイトボードに何も書いていないグループが、クロストークで指名すると課題の核心に迫るような発表ができた。(後略)	○生徒の姿について事前の綿密な想定はやはり必要だと思う。特にエキスパート資料の問いの言葉は「生徒がこの言葉をどう受け取るか」という視点で想定しておくことが大事である。 ○授業の最後まで教師が生徒を信じて我慢して待つことも大事ではないかと思った。
B 先生 (小学校国語)	【小学 6 年生：国語「川とノリオ」の授業】 ①メインの課題「川とノリオは、どんなつながりがあるだろうか？」について、物語の時系列に沿って、繰り返し読んで考えていった。授業者としては、課題に対する解答の深まりを期待していたが、子どもたちにとっては、その場面ごとに川とノリオのつながりをとらえていて、深まるという感じではなかった。 ②最後の場面で課題について考えた時に、「永遠の友だち」という言葉に終始してしまい、様々な表現を引き出したいという授業者の想定する解答は引き出せなかった。	①同じ課題に対して、繰り返し考えて深めていく教材と、そうではないものがある。課題は、子どもたちの実態に沿って、どのように問いかけたら課題を引き受けてくれるのか、引き出したい言葉を話してくれるのかを考えた上で設定しなければならない。(当たり前過ぎますが…) ②小学校国語の授業では、抽象的で大きなスケールの課題にすると、簡単な言葉に収束してしまうので、ねらう姿を引き出すための課題は、物語の具体的な場面を絡めた内容が好ましいのではないかと考える。(後略)

表 14：学びの事実に基づいて授業づくりについて見えてきていること (例)

#### (4) 今後に向けて

前項で示したデータは断片的ではあるが、「新しい学びプロジェクト」の取組が 2,3 年という比較的短いスパンで新しく授業改善の核となりうる先生が育つ場として一層機能しつつある可能性を示している。実践例の蓄積、中核の先生方の語られる授業デザイン原則の充実、それを支える授業研究スタイルの確立がその背景にあるだろう。

他方、こうした先生方を活用して学校や市町全体の授業改善をどう前進させていくかは次の大きな課題である。今年度本格的に取り組み始めた授業研究のスタイルを各学校、市町に根付かせていくことを 1 つの切り口に、新しい課題解決のモデルを模索したい。

### 3. 未来を拓く「学び」プロジェクト

#### (1) 連携事業の概要

埼玉県教育委員会では、CoREFとの連携による「知識構成型ジグソー法」を活用した協調学習の授業づくりを一つの柱に、生徒の主体的な学びを引き出す継続的な授業改善を行う研究連携事業を平成22年度から継続してきた。平成22、23年度は「県立高校学力向上基盤形成事業」、平成24～26年度は「未来を拓く『学び』推進事業」、そして平成27年度からは新たに5年間の計画で「未来を拓く『学び』プロジェクト」を開始した。

研究連携の中心的活動は、「知識構成型ジグソー法」による教材の開発、実践、実践の振り返りである。研究の具体的な進め方としては、研究連携に参加を希望する学校（研究開発校）を県内の公立高等学校及び県立中学校から募り、各研究開発校が校内で中核的に研究を進める教員（研究開発員）を申請する。研究開発員は教科等の部会に組織され、対面とネット上のやり取りによって、協力して教材開発と実践、効果検証を行う。

研究推進の進行管理及び連絡調整は、埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課及び県立総合教育センターがリードし、CoREFはこれらと協力しながら、協調学習の理解を深めるためのワークショップのデザインや教材開発の支援、授業実践評価など、研究推進上の様々なサポートを行う。また、埼玉県教育委員会からCoREFに管理職級の職員1名、マイスター認定教員（後述）1名の計2名が派遣され、協力研究員として東京大学に常駐し、研究連携のコーディネートを行っている。

#### ① 事業規模の推移

9年間の研究連携における事業規模の推移を図3に示す。

研究連携がスタートした平成22年度には、研究開発校が県立高校の約7%にあたる10校であったものが、平成30年度には県立高校の約96%にあたる133校に加えて市立高校2校、県立中学校1校の計136校に拡大している。

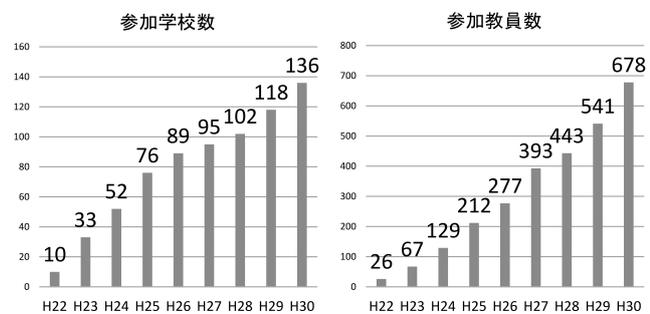


図3：研究開発校及び研究開発員数の推移

また、研究開発員数も平成22年の26人から平成30年には678名に増加している。全体数が増加しているだけでなく、1校あたりの研究開発員数の平均も2.6名から5.0名に増加しており、各研究開発校内での研究の充実も一層期待される。

#### ② 事業の目的

本事業の目的を表15に示す。本事業は、協調学習の授業づくりに関する埼玉県の取組の結実期として位置づけられ、これまで取り組んできた「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりをより広いアクティブ・ラーニングの文脈から捉えなおし、協調学習の授業を特別なものでなく日常化することを射程にデザインされている。そのため、事

業の目的としては、学びの評価についての研究に一層注力すること、「協調学習」の授業づくりを軸とした教員同士の学びのネットワーク形成を一層意識的に行うことが掲げられている。

<p>未来を拓く「学び」プロジェクト (H27-31) の事業目的 (平成 27 年度の表記による)</p> <p>生徒のコミュニケーション能力、問題解決能力、情報活用能力など、これからの時代を主体的に生きるために必要な資質・能力の育成を目指し、「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりを中心とするアクティブ・ラーニングに関する研究に取り組む。</p> <p>《事業の概要》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒が主体的に学ぶ意欲をはぐくむ授業案等の研究・開発及び検証を行う。</li> <li>(2) ICT の効果的活用に関する研究を行う。</li> <li>(3) 評価の標準化と一般化に向けた研究を行う。</li> <li>(4) 授業案等の共同開発や情報共有を行う教員ネットワークを構築する。</li> <li>(5) 東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構をはじめ、大学や研究機関、企業等の持つ知見を教育現場に活用する。</li> </ol>
---

表 15: 「未来を拓く『学び』プロジェクト」の事業目的

### ③ 未来を拓く「学び」プロジェクトを中心とした事業展開

埼玉県と CoREF との研究連携は本事業に留まらず、多角的な事業展開とそれらを有機的に組み合わせた教員の学びのシステムづくりを行ってきた。その展開を図 4 に示す。

平成 22 年度から「知識構成型ジグソー法」を用いた協調学習の授業づくり研究連携がスタートし、平成 24 年度にはその成果を生かした初任者研修がスタートした。初任者研修の講師は、CoREF とともに、研究開発員や各教科部会を運営する指導主事が務めている。初任者研修による県内高等学校への全面展開に伴って、各学校管理職や教育行政関係者にビジョンの共有を行うための管理職研修が平成 25 年度からスタートした。平成 28 年度からは、悉皆の新任校長、教頭研修にも協調学習の授業改善支援が組み込まれた。

また、平成 26 年度には、研究連携に携わる実践者の中からさらに中心的な役割を果たすものを対象に月 1 回のワークショップ型の研修を 1 年間行う協調学習マイスター研修がスタートした。このマイスター研修は、次節で扱う CoREF の「本郷学習科学セミナー」を活用したものであり、他県から同様のねらいで参加する多様な校種・教科の実践者や研究者と共に意見交換や実践検討を行うことが可能になっている。

埼玉県の協調学習マイスター認定教員は今年度当初現在 47 名であり、「知識構成型ジグソー法」による協調学習に基づく授業改善を推進している。県内の研修会講師等を務めるほか、県外、海外にその活躍の場を広げている。一例として、本年度の JICA 草の根技術協力事業専門家派遣においてフィリピンを訪問し、フィリピン教員による知識構成型ジグソー法授業を参観し指導助言者を務めた。この取組については本章第 5 節で触れる。

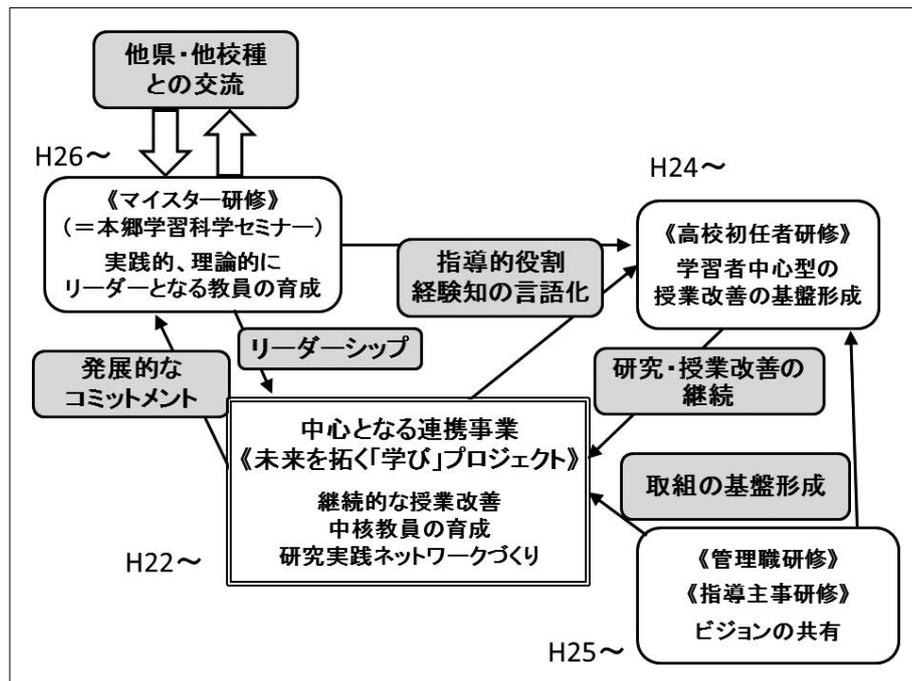


図4：埼玉県の高등학교における協調学習関連事業の展開

埼玉県の事業展開においては、中心となる連携事業で授業改善を牽引する中核教員の育成、共有できる質の高い教材の開発を行い、それらのリソースを活用して初任者研修を切り口に県内のすべての高等学校の授業改善につなげている。そうした試みを管理職や指導主事の研修で支え、目指す新しい学びのゴールイメージの共有を行っている。それにより、初任者研修に参加した教員の中からさらに学びたいものが中心となる連携事業に参加し、そこで育った中核教員の中から授業改善の実践的、理論的なリーダーとなる教員にさらなる学びの場を与え、その学びをまた連携事業や研修等に還元していく、といった実践者の学びの流れ、事業間の有機的な連携が実現している。9年間という流れの中で、研究開発員が指導主事や管理職に就き次代の教員の育成を支える例も増えてきた。中核となる先生方の学びの質も高めつつ、県内全体にその成果を波及させていくこうした先生方の学びのシステムづくりが埼玉県と CoREF の研究連携の最大の特色であり強みであると言えるだろう。

**(2) 今年度の事業の報告**

続いて、今年度の「未来を拓く『学び』プロジェクト」の実施状況について報告する。

**① 今年度の研究開発員**

今年度の教科部会別の研究開発員数は表16のとおりである。

なお、研究開発員678名のうち、151名(22.3%)が昨年度初任者研修で協調学習を学んだ受講者である。これは受講者の約53%にあたる。また、今年度研究開発員の69.3%(470名)が平成24年度以降の授業力向上研修の受講者である。協調学習関連事業を有機的にネットワーク展開することによって、初任者の段階から授業改善に前向きな教員を拾い上げ、若手のうちに授業改善の中核にまで育て上げる流れが機能していると言える。

国語	地理歴史	公民	数学	理科	保健体育	音楽	美術工芸	書道	外国語	家庭	情報	農業	工業	商業	看護	福祉
116	80	32	114	89	32	10	5	7	96	13	15	14	22	24	6	3

表16：平成30年度「未来を拓く『学び』プロジェクト」教科部会別研究開発員数一覧（名）

## ② 今年度の研究開発校

表17に今年度の研究開発校一覧を示す。研究開発校は、全日制高校や定時制高校、普通科高校や専門高校、すべての生徒が4年制大学への進学を希望している高校や進路多様校とまさに多様である。

上尾高等学校、上尾鷹の台高等学校、上尾橘高等学校、上尾南高等学校、朝霞高等学校、いずみ高等学校、伊奈学園総合高等学校、人間向陽高等学校、岩槻高等学校、岩槻商業高等学校、岩槻北陵高等学校、浦和高等学校、浦和北高等学校、浦和工業高等学校、浦和第一女子高等学校、浦和西高等学校、大宮高等学校、大宮工業高等学校、大宮光陵高等学校、大宮商業高等学校、大宮中央高等学校、大宮南高等学校、大宮東高等学校、大宮武蔵野高等学校、小鹿野高等学校、桶川高等学校、桶川西高等学校、越生高等学校、春日部高等学校、春日部工業高等学校、春日部女子高等学校、春日部東高等学校、川口高等学校、川口北高等学校、川口工業高等学校、川口青陵高等学校、川口東高等学校、川越高等学校、川越工業高等学校、川越女子高等学校、川越総合高等学校、川越西高等学校、川越初雁高等学校、川越南高等学校、北本高等学校、久喜高等学校、久喜工業高等学校、久喜北陽高等学校、熊谷高等学校、熊谷工業高等学校、熊谷商業高等学校、熊谷女子高等学校、熊谷西高等学校、熊谷農業高等学校、栗橋北彩高等学校、芸術総合高等学校、鴻巣高等学校、鴻巣女子高等学校、越ヶ谷高等学校、越谷北高等学校、越谷総合技術高等学校、越谷西高等学校、越谷東高等学校、越谷南高等学校、児玉高等学校、児玉白楊高等学校、坂戸高等学校、坂戸西高等学校、幸手桜高等学校、狭山経済高等学校、狭山工業高等学校、狭山清陵高等学校、狭山緑陽高等学校、志木高等学校、庄和高等学校、白岡高等学校、進修館高等学校、杉戸高等学校、杉戸農業高等学校、誠和福祉高等学校、草加高等学校、草加西高等学校、草加東高等学校、草加南高等学校、秩父高等学校、秩父農工科学高等学校、鶴ヶ島清風高等学校、常盤高等学校、所沢高等学校、所沢北高等学校、所沢商業高等学校、所沢西高等学校、戸田翔陽高等学校、滑川総合高等学校、南稜高等学校、新座高等学校、新座総合技術高等学校、新座柳瀬高等学校、蓮田松韻高等学校、鳩ヶ谷高等学校、鳩山高等学校、羽生高等学校、羽生実業高等学校、羽生第一高等学校、飯能高等学校、飯能南高等学校、日高高等学校、深谷高等学校、深谷商業高等学校、深谷第一高等学校、吹上秋桜高等学校、富士見高等学校、ふじみ野高等学校、不動岡高等学校、本庄高等学校、松伏高等学校、松山高等学校、松山女子高等学校、三郷高等学校、三郷北高等学校、三郷工業技術高等学校、皆野高等学校、宮代高等学校、妻沼高等学校、八潮高等学校、八潮南高等学校、吉川美南高等学校、与野高等学校、寄居城北高等学校、和光高等学校、和光国際高等学校、鷲宮高等学校、蕨高等学校、伊奈学園中学校、川口市立高等学校、さいたま市立浦和高等学校

表17：平成30年度「未来を拓く『学び』プロジェクト」研究開発校一覧（五十音順）

## ③ 今年度のスケジュール

今年度の事業の主なスケジュールと概要を以下の表18に示す。

日程	イベント・会場	概要
5/26	指導主事 カンファレンス (県立総合教育 センター)	第1回カンファレンスに向けて各教科部会担当指導主事がビジョンを共有、第1回カンファレンスでの演習内容を自らも学びながら教科部会の進め方について協議した。
6/9	第1回 カンファレンス (県立総合教育 センター)	「主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究」を主題に、各教科部会で「教科として育成したい資質・能力」を整理し、個別の授業について資質・能力がどのように発揮されそうかを具体的に想定することで、見とりの観点を設定する演習を行った。あわせて、今年度の研究テーマや研究の進め方についての意見交換を行った。
以降 随時	教科部会・ 検証授業	各研究開発員が設定した研究テーマに即して、「知識構成型ジグソー法」を用いた教材開発や実践、効果検証を行った。研究開発員同士は、事業ホームページ内の会員制掲示板や任意に設定される対面の部会を通じて教材検討などを行ったり、互いの研究授業を参観したりしながら、研究実践の交流を進めた。
12/1	第2回 カンファレンス (東京大学)	各教科部会で今年度の実践から見えてきた生徒の学びの具体例や成功・失敗談等を持ち寄り、生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出す授業のデザインや支援の原則として言えそうなことをまとめ、共有した。
12/26	シンポジウム (戸田市文化会館)	<p>全国25都道府県から約800名の参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルディスカッション1「授業研究と高大接続をつなぐ」 安西 祐一郎（文部科学省参与〈高大接続改革担当〉、元高大接続システム改革会議座長） 今村 聡子（文部科学省総合教育政策局 政策課 主任教育企画調査官） 山田 泰造（文部科学省高等教育局 大学振興課 大学入試室長） 白水 始（東京大学 CoREF 教授）</li> <li>※パネルディスカッション1の内容は、本報告書付属DVD「参考資料」「その他」フォルダ内に収録した。 是非ご参照いただきたい。</li> <li>・パネルディスカッション2 「主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究」 ※協調学習マイスターの実践報告を軸にした議論</li> <li>・担当教員等による教科部会等別ラウンドテーブル ※各教科部会の研究成果の発表を中心に、県内で「新しい学びプロジェクト」に参加する小中学校教員による実践報告など</li> </ul>

表18：平成30年度「未来を拓く『学び』プロジェクト」年間スケジュール

### (3) 今年度の成果と課題

#### ① 今年度の研究成果物

今年度はのべ94校で363の公開研究授業を行った。CoREFスタッフは、公開研究授業を中心に可能な限り多くの授業を実際に訪問観察し、フィードバックを行った。実践者には、可能な限り生徒への「授業の満足度」アンケートの実施、「授業前後の解答の変化」の記録、それに基づく実践の振り返りの作成をお願いしている。

本報告書巻末のDVDには、今年度の本事業実践のうち226例を含む本事業を中心とした高等学校での実践例1628について、授業案、教材、実践者の振り返りをPDFファイルで収録している。ご活用いただきたい。

#### ② 取組の状況

次に、研究開発員の先生方へのアンケートを基に、この取組に関わる先生方が「知識構成型ジグソー法」の授業やこの型に関わらず生徒が主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業をどのくらいの頻度で実施しているかを示す。

表19は、アンケートにお答えいただいた210名の先生方が「知識構成型ジグソー法」をどんな場面で、どんな教材を使ってどの程度実践されたかを示している。

平均すると、お一人あたり年間4.7教材で「知識構成型ジグソー法」を実践している。

個々の先生方の実践回数に着目すると、7教材以上実践されている方が39名(18.5%)、4～6教材が53名(25.2%)、2、3教材が72名(34.3%)、1教材以下が46名(21.9%)であった。回答者の5分の4程度が学期に1、2教材程度「知識構成型ジグソー法」を実践されている実践者であるという実態が見てとれる。

実践の内訳は新規開発教材と過去の教材の活用が3:2(昨年度もほぼ同様)である。また、研究授業での実践は全体の約30%である。

アンケートでは、「『知識構成型ジグソー法』に限らず、生徒が主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業をどのくらいの頻度で行われていますか?」という質問も行った。

結果、13.3%が「ほぼ毎時間」、16.2%が「半分以上」、22.9%が「月に数回程度」、40.5%が「学期に数回程度」、7.1%が「それ以外」と答えた。半数以上の先生方がかなりの高頻度で「生徒が主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業」に取り組んでいると言える。

	今年度新規教材として開発	過去の教材をアレンジして活用	過去の教材をそのまま利用	計
研究授業で実施	1.0	0.3	0.1	1.4
研究授業以外で実施	1.2	0.6	0.4	2.2
今後実践を行う予定	0.6	0.3	1.0	1.0
計	2.8	1.2	0.6	4.7

表19：今年度の「知識構成型ジグソー法」の平均実践数(N=210)

この結果から、多くの先生方が実践研究のための共通の型として「知識構成型ジグソー法」を使った授業デザインの研究に取り組みながら、授業の中ではジグソー以外の対話型の学びも積極的に取り入れていることが分かる。

先生方からは「『知識構成型ジグソー法』の授業づくりで学んだ視点を普段の授業づくりでも活かしている」「普段の授業から原則対話型を取り入れている」「单元の中でポイントになるところで『知識構成型ジグソー法』を使っている」といったお話を伺う。

本章第1節で解説したように「知識構成型ジグソー法」を研究の核とすることで、広く生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出す授業デザインの実践的力量向上を行っていく取組のねらいが達成されていることが伺える。対話型の授業を普段遣いする先生方が順調に増えていることは事業の大きな成果であると言える。

他方、対話型の授業の広がりと同時に、その中で生徒の学びの深まりの追求が求められる。主体的・対話的で深い学びの実現のために、生徒の学びの質にこだわった授業研究を充実させること、生徒の学びの事実に着目した先生方のやりとりを一層広げていくこと、その中核となる先生方の数を着実に増やし、有効に活用することを意識しながら進めたい。

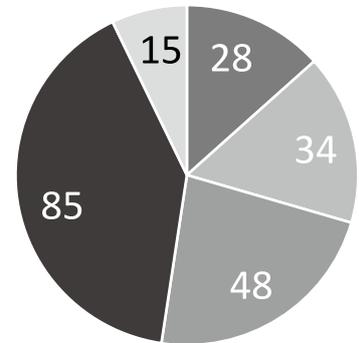
### ③ 教科部会の研究状況

「未来を拓く『学び』プロジェクト」では、新規教材の開発と実践を行うだけでなく、各教科部会が5年間のプロジェクトのゴールイメージをもち、それを基に毎年度検証したいテーマを設定して研究に取り組んでいる。

今年度はすべての教科部会を横断して、教科等として伸ばしたい資質・能力を同定し、それらが個々の授業でどのように発揮、伸長されそうか、見とりの観点を設定し、それに即して生徒の学びの事実を丁寧に見とり、授業デザインを検証するという授業研究を研究主題の1つとして設定し、研究授業のうちのいくつかを重点研究授業に設定して上記の観点からより濃密な授業研究を行った。また、こうした授業研究を通じて、教科における主体的・対話的で深い学びを実現するための授業デザインの原則を整理することも行った。

#### a) 今年度の研究状況一覧

次ページからは、こうした授業研究から見えてきたこと、また各教科部会が独自に設定した研究テーマについて見えてきたこと、次年度に向けての課題などを各教科担当指導主事に整理していただいた一覧を掲載する。



■ ほぼ毎時間 ■ 半分以上  
■ 月に数回程度 ■ 学期に数回程度  
■ それ以外

図5: 「知識構成型ジグソー法」に限らず、生徒が主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業の実施頻度 (回答数、N=210)

<b>国語部会</b>		<b>研究開発員数</b> 116名
今年度の 主な研究 テーマ	よりよい授業づくりにつなげる国語科の学びと見とり	
研究の 進め方	○教材ごとの班（評論、小説、古典、国語表現）、ICT活用班、評価・見とり班を編成した。各班の実践に加え、前期・後期における重点研究授業の実施、ICT活用班による学校間をICTでつないだ実践などにより、研究を深めた。	
研究から 見えてきたこと	○適切な課題設定の難しさ。（オープンエンド・クローズドエンド、難易度、量……複雑にし過ぎないことが大切ではないか） ○「見とりの観点シート」の作成により、育成したい力や学ばせたいことを明確にでき、授業デザインに工夫や仕掛けをすることができる。 ○図示や記述などにより思考内容を表現させることで、クロストークの際にクラス全体で学びを共有することができる。	
次年度に 向けての 課題	○教科や科目を横断した実践事例の収集と研究を行う。 ○ICTを活用した実践事例の収集と研究を行う。 ○生徒の実態に応じた適切な課題設定の在り方について研究を行う。	
<b>地理歴史部会</b>		<b>研究開発員数</b> 80名
今年度の 主な研究 テーマ	○地理歴史科としてどのような資質・能力を育成したいのか共通理解を図る ○新学習指導要領とリンクした地理歴史科としての観点をつくる	
研究の 進め方	○見とりの観点シートを活用した授業研究 ○重点研究授業の実施と振り返り	
研究から 見えてきたこと	○課題を明確化することによって、資料がより明快で共有しやすい、練られた教材になる。 ○時には深い学びのための支援（介入）が必要。 ○学びの環境を整えることが重要。 ○既存知識にたより過ぎず、新しい視点を示すことも必要。 ○クローズドエンドの「問い」であっても、オープンな「問い」を用意することで対話が生まれる。 ○活動に時間をかけすぎない。	
次年度に 向けての 課題	○授業研究をより深め、教科として育成したい資質・能力を絶えず見直す ○研究開発員への調査によるプロジェクトのまとめ（この5年でどう進化したか、どう変化したか）	

公民部会		研究開発員数 32名
今年度の 主な研究 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○蓄積された教材の活用</li> <li>○エキスパート活動のあり方を考察</li> <li>○生徒に合わせた資料活用と課題設定</li> <li>○思考力・判断力・表現力等を伸ばす課題設定</li> </ul>	
研究の 進め方	○各研究開発員が研究テーマを意識した授業を実践	
研究から 見えてきたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の授業内容を授業初めに行うことで議論が活発になる。</li> <li>○エキスパート活動の資料提示の工夫でジグソー活動が活発となる。</li> <li>○予想を超える活発な議論を行うために、論点をしぼり、既存の知識や考え方を疑わせるような生徒を揺さぶる工夫も大切である。</li> <li>○政治的中立性を確保する議論を行うために、生徒の答えを誘導し、結論ありきの議論を行わないような資料提示の工夫を行う。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領への対応を踏まえた教材の作成と活用</li> <li>○ジグソー活動、クロストークの効果的な実施方法の研究</li> <li>○協調学習における観点別評価についての検討</li> </ul>	
数学部会		研究開発員数 114名
今年度の 主な研究 テーマ	育成を目指す資質・能力を測る「評価」の研究	
研究の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各研究開発員による評価方法の開発と検討</li> <li>○教科ミーティングや教科別研究協議時における情報交換・情報共有</li> <li>○未来「学び」サイトにおける情報交換・情報共有</li> </ul>	
研究から 見えてきたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○重点研究授業を中心に「見とりの観点シート」による観察法を用いた「評価」の実践がなされた。それにより（特に、教科別研究協議の中で）授業者のねらいと学習者の学びの様子のギャップを明確にできた。</li> <li>○各研究開発員が生徒の実態に応じた様々な評価方法を用い、育成を目指す資質・能力を測ろうと試みた。（例）エキスパート・ジグソー活動などにおける振舞い等を測るループリックによる評価；長期記憶テストによる評価；GPSによる評価；KCJ法の授業後に実施するパフォーマンス評価等。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各研究開発員が開発・実施した評価方法の共有。</li> <li>○KCJ法以外の授業も含めた、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中での、育成を目指す資質・能力を測る評価方法の開発と検討。</li> </ul>	

<b>理科部会</b>		<b>研究開発員数</b> 89名
今年度の 主な研究 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の自己評価と教員の見とり</li> <li>○身近な現象と結び付ける力</li> <li>○横断的な思考力</li> </ul>	
研究の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究テーマに則した新規教材の開発</li> <li>○新規開発教材の効果、検証</li> </ul>	
研究から 見えてき たこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業者が身近な現象との結び付けを意識することにより、生徒は自然現象から「なぜ？」という疑問を持ち、日常的に「考える」という意識付けにつながったと言える。</li> <li>○ジグソー法を用いることで、物理・化学・生物・地学の4分野について、科目の枠を超えた教材を作成しやすくなった。生徒にとっては、4分野のつながりを理解することができ科学的探究力の向上につながった。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○9年間で多くの教材が蓄積されており、先生方の専門以外の科目についての活用方法の検討が重要である。特に実験を含んだ教材の有効な活用方法の検討が必要である。</li> </ul>	
<b>保健体育部会</b>		<b>研究開発員数</b> 32名
今年度の 主な研究 テーマ	実技体育の授業モデルの作成と実践（継続）	
研究の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究開発員の相互連携により授業モデルを開発し実践する。</li> </ul>	
研究から 見えてき たこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協調学習が当たり前のものになってきている。</li> <li>○学び合い学び続ける教員集団となるための教員ネットワークができている。</li> <li>○デザイン原則が共通言語になっていない。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発員一人一人の取組を、より効果的にゴールへつないでいけるよう、マイスターを中心に組織的に取り組んでいく。</li> <li>○過去の授業案の収集、種目・単元別に分類</li> <li>○過去の授業案のアップデート</li> <li>○デザイン原則の共有</li> <li>○協調学習ハンドブックの作成</li> </ul>	

音楽部会		研究開発員数 10名
今年度の 主な研究 テーマ	音や音楽によるコミュニケーションと音楽科の特質に応じた協調学習 ～資質・能力を高める授業展開の工夫～	
研究の 進め方	○新規教材開発の効果、検証	
研究から 見えてき たこと	○レディネスチェックを行い、生徒のレベルを明確にしておくことが大切。 また、技術は習得させたいと協同学習に取り組むほうが、より効果的 でより深まる。しかし、授業を行なったからといってすぐに技能が向上 するということは性急に求めず、育てたい資質・能力をより長い期間で の目標とし、複数回、少しずつでも取り入れてステップアップしていく ことが重要である。(特に器楽分野) ○ICT活用は効果的であるので、さらなる環境整備を行い、ICTを日常的 に使えるような音楽室づくりや授業展開を効果的に進める。	
次年度に 向けての 課題	○反転学習へ利用できる教材開発や動画作成。ICT活用事例をさらに増やす。 ○器楽分野については実践が報告されたがまだ少ない。小中高等学校の学 びの連続をさらに意識し、音楽の「見方・考え方」を踏まえ更なる汎用 性と柔軟性のあるモデルを作っていく。	
美術・工芸部会		研究開発員数 5名
今年度の 主な研究 テーマ	見とりの観点を意識した主体的・対話的で深い学びの実践	
研究の 進め方	○「見とりの観点シート」を作成し、学びの想定と実態を比較しながら学 びを見とり、授業を振り返る実践を行った。	
研究から 見えてき たこと	○「見とりの観点シート」に基づく生徒たちへの育成したい資質・能力、 発揮された姿を予想し、それを事前に先生方と情報共有したことで、事 後の研究協議をする上で成功、改善点が明確になり非常に有効であった。 ○授業のねらいや育成したい資質・能力、発揮された姿を教師が明確に予 想し、綿密に準備、授業実践ができれば、多少の誤算があったとしても 目標が達成しやすい。	
次年度に 向けての 課題	○本年度は、研究員が少なかったが、その分、密度の濃い教材開発や研究 協議を進め、一つ一つの研究授業を実践することができた。そこから見 えてきた、成功例、改善例をより具体化し、データを蓄積していくこと が必要であり、研究開発員が益々増えるような実践を展開していくこと が大切である。	

<b>書道部会</b>		<b>研究開発員数</b> 7名
今年度の 主な研究 テーマ	使いやすい教材の開発	
研究の 進め方	○校内における個人研究を中心に、書道の研究開発員同士または各校の他教科の研究開発員と連携しながら研究を進めた。	
研究から 見えてきたこと	○生徒の実態を考えて授業を考える。課題設定は最重要ポイント。 ○エキスパート活動では考えさせることを明確にする。要点を絞り、情報量は少なく、シンプルに。文字量は最小限にすること。 ○生徒の実態に応じた資料を作成し、効果的な活動を適切に盛り込むことでより生徒の深い学びを実現していく。1人の作業になりがちであるが、他人が書いている姿を見たり、自分が書く時にどのように筆を動かすか等を、言葉に出して教え合うことが大変有効であった。	
次年度に 向けての 課題	○生徒は言葉にできない思いを秘めているので、語句などをあらかじめ示して発言しやすくする教材研究をする。 ○研究開発員を増やすため高書研会員、初任者との連携も取り、共有できる教材をより多く開発する。 ○書道において、一つの教材を作るために画像処理などは大変な労力であるが、新規教材を開発する姿勢は維持しながら他の先生方の教材をシェアし合い、数多く実践していく姿勢が大切である。	
<b>外国語部会</b>		<b>研究開発員数</b> 96名
今年度の 主な研究 テーマ	○評価を意識した授業の設計 ○協調学習における生徒の見とり	
研究の 進め方	○各研究開発員が研究テーマを意識した授業を实践	
研究から 見えてきたこと	○生徒の実情に合わせて、協調学習の達成目標を設定する必要がある。 ○授業者が適切な指示をしたり、環境を作ることによって、生徒が英語を話したり、理解をすることにつながる。	
次年度に 向けての 課題	○エキスパート資料で扱う3つの資料や素材を基に、ジグソー活動での対話を通じて、新しい発想や意見を生み出せるテーマやトピックを設定する ○英語での話し合いや発表を支えるための日常の授業における言語活動の在り方について検討する。	

<b>家庭部会</b>		<b>研究開発員数</b> 13名
今年度の 主な研究 テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○共通教材の作成・実践・検証</li> <li>○見とりの観点に関する検証</li> </ul>	
研究の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各校の生徒の実態に合わせた教材の開発、実践、及び検証</li> <li>○教科部会及び公開授業後に、教材検討や情報交換等の研究協議会を実施</li> <li>○サイトを利用した情報交換の実施</li> </ul>	
研究から 見えてき たこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の実態に即したエキスパート資料やゴールを設定すると、元の教材が同じでも生徒の理解が早く、学びの深まりがある。</li> <li>○問いかけや発表方法の工夫により、生徒の思考（解答表現）が変わる。</li> <li>○視聴覚教材の利用は効果的だが、使い方を熟慮する必要がある。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度の研究テーマを継続する。</li> <li>○見とりの観点に関する検証に基づいた教材検討を進める。</li> <li>○視聴覚教材を効果的に取り入れた教材作成を進める。</li> </ul>	
<b>情報部会</b>		<b>研究開発員数</b> 15名
今年度の 主な研究 テーマ	知識構成型ジグソー法における評価と見とりの観点の適切な設定	
研究の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮説に基づく観点と授業デザイン原則による重点授業での実践</li> </ul>	
研究から 見えてき たこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力に応じたエキスパート資料を準備することが必要である。</li> <li>○生徒の既有知識をしっかりと見定めることで、エキスパート資料の内容が生徒の学習到達度と乖離しないようになる。</li> <li>○生徒一人一人の学びの変容をきめ細かく見とる授業者の視点や手法が明らかになってきた。</li> <li>○ジグソー法に対する生徒の慣れは学習活動に戸惑うことなく、生徒相互の学び合いに集中することにつながり、その結果、学習理解が深まる。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニケーションツールに関して、生徒の実態を把握しておく</li> <li>○エキスパート資料で挙げる例示等には十分注意する</li> <li>○きめ細かな学びの見とりを可能にするツールの開発</li> <li>○手軽に実施できるジグソー法の教案（学習指導案）を立案する。（教材の共有）</li> </ul>	

<b>農業部会</b>		<b>研究開発員数</b> 14名
今年度の 主な研究 テーマ	年間指導計画への位置付けと見とりの観点シートの活用	
研究の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究開発員の授業実践と見とりの観点シートを作成する。</li> <li>○蓄積された教材と新規に実践した教材を整理し、農業科目別に協調学習（指導項目）と評価方法を年間指導計画に位置付ける。</li> </ul>	
研究から 見えてきたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業実践からの教材の工夫改善                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に合った、具体的で明確な課題設定や資料を作成する。</li> <li>・学習のつながりを生む補助的な指示が有効である。</li> </ul> </li> <li>○農業科目別年間指導計画への位置付け                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」を意図した単元の学習活動が展開できる。</li> </ul> </li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	○農業科目別の協調学習（指導項目）と見とりの観点シート（評価方法）を、農業科目別年間指導計画に整理し、過去の教材の工夫改善を図ったり、研究開発員や関係する学校間で共有したりすることで、協調学習実践における準備等を効率化していく。	
<b>工業部会</b>		<b>研究開発員数</b> 22名
今年度の 主な研究 テーマ	工業技術者として自ら考え判断し行動ができる生徒を育成する授業の研究	
研究の 進め方	○実習系・座学系などの制限はせず、工業技術者としての素養を身に付ける教材開発と実践授業から研究テーマについての検証し、次年度に向けた課題をまとめる。	
研究から 見えてきたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○メイン課題とエキスパート課題は、難易度やバランスを考え設定する。</li> <li>○メイン課題が身近な考えやすいものなら、エキスパート課題の難易度を高くして、資料を読み解く力を身に付けさせる。</li> <li>○メイン課題が難しい内容であれば、エキスパート課題の難易度を低くして確実に情報を読みとり、ジグソー活動得られた情報を組み合わせる力を身に付けさせる。</li> <li>○身近な内容や社会とのつながりを意識した題材がより効果的である。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の取組や成果と観点別学習状況評価を連動させる。</li> <li>○生徒各自が疑問を抱き、興味を持てる課題を設定する。</li> <li>○工業科において、協調学習の定着化を図る。（協調学習の裾野を広げる）</li> <li>○協調学習で他教科・科目間の連携を図り、授業の質の向上を図る。</li> </ul>	

<b>商業部会</b>		<b>研究開発員数</b> 24名
今年度の 主な研究 テーマ	誰でも気軽にできる協調学習及び生徒の変容を見とれる評価手法の開発	
研究の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究開発員一人一人が必ず1回以上の協調学習を実施する。</li> <li>○ICTを活用した授業を実践し、授業の評価手法について検討・開発する。</li> <li>○協調学習の授業をなるべく公開し、研究開発員同士で参観する。</li> </ul>	
研究から 見えてきたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTの活用は、生徒に対し情報を適切に提供でき、時間も短縮できる。 事前準備や施設等に課題はあるが、ICTを活用した授業を推進していく。</li> <li>○評価については、ルーブリック評価や、生徒自身による自己評価表、相互評価表を活用することで、思考力・判断力・表現力等を適切に評価できることがわかった。来年度は、共通の評価基準表を用い、研究開発員全員が取り組めるようにしていく。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商業の原則履修科目「ビジネス基礎」をベースに、「簿記」、「情報処理」など、商業における四つの分野の科目の実践を行い、教材の構築を図っていく。また、今年度同様に、研究開発員20名以上を募りたい。</li> <li>○評価については、ルーブリック評価や、生徒自身による自己評価表、相互評価表を用いて、研究開発員全員が取り組めるようにしていく。</li> </ul>	
<b>看護部会</b>		<b>研究開発員数</b> 6名
今年度の 主な研究 テーマ	事例をあげて協調学習を行う場合の研究	
研究の 進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材開発・授業実践を行った。 ※今回は、福祉部会との共通教材：「車椅子移乗」の作成・授業実践</li> <li>○授業後には研究協議を行い、専門高校における協調学習について検証を行った。</li> </ul>	
研究から 見えてきたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「抽象化～具現化」を何度も反復させることで、汎用性の高い原理原則を導き出すことができる。そのために以下の点が必要である。</li> <li>①現場に即した臨場感のある場面を設定する。</li> <li>②これまでの経験則を活かせるような場面を設定する等で、深く考えさせる。</li> </ul>	
次年度に 向けての 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科を超えた共通教材の開発 福祉部会との協議や情報交換をもとに、共通教材の開発に取り組む。</li> <li>○事例をあげて協調学習を行う場合の教材開発 過去の指導案のブラッシュアップや、新規教材の開発を行う。</li> </ul>	

福祉部会		研究開発員数
		3名
今年度の 主な研究 テーマ	福祉・看護合同による事例（場面設定）を用いた授業の研究	
研究の 進め方	○看護部会との共通教材として「車椅子移乗」を設定し、生徒の実態に合わせた教材の開発、実践及び検証 ○教科部会及び公開授業後に、教材検討や情報交換等の研究協議会を実施。	
研究から 見えてきたこと	○「抽象化から具体化」を何度も反復させることで、汎用性の高い原理原則を導き出し、現場での実践力につながる。 ○実技を扱う題材の場合、生徒に正しい視点を持たせることで学びが深まる。	
次年度に 向けての 課題	○教科を超えた共通教材の開発 看護部会との協議や情報交換を継続し、共通教材の開発を進める。 ○事例を用いた教材開発 過去の指導案のブラッシュアップや、新規教材の開発を進める。	

## b) 授業デザイン原則

本事業では、昨年度から実践を通じて見えてきた生徒の学びの事実を基に、各教科において主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業デザインの原則を整理してきた。

図6は、今年度地歴部会がまとめた授業デザイン原則のうちの1つである。

図6では、温暖化、砂漠化、大気汚染の3つのエキスパートに分かれて学んできた後にジグソーでその「共通する課題」について考えさせたことで生徒の思考が深まったという事例、与えられたエキスパートのまとめ方が班ごとに異なっていて1班だけ時系列的に再構成して整理するという深まりを見せたという事例、メインの問いとは別の視点で考えさせる問いをジグソー活動に入れることで解答に深まりが出たという事例の3つの授業で見えてきた生徒の学びの姿を基に、「ジグソー活動で『深い』学びを実現するために新しい視点や別の角度を示す（ワークシート or 口頭）」という授業デザインの原則を整理している。

具体的な授業でのエピソードを基に、課題設定が大事、エキスパート3つの羅列にならないように、といった先生方の課題意識に即して次に試してみられそうな具体的な授業デザインの原則をまとめられている。

各教科部会が整理した今年度版の授業デザイン原則については、本報告書第2部第1章第2節に収録されている。あわせてご参照いただきたい。

具体的な学びの事実を捉え、そこから仮説としての授業デザイン原則を整理するという試みが上の例のようにうまく機能している面もあれば、まだ十分先生方の手に馴染むやり方になっていない面も見受けられる。学びの事実に着目する授業研究が充実することで、

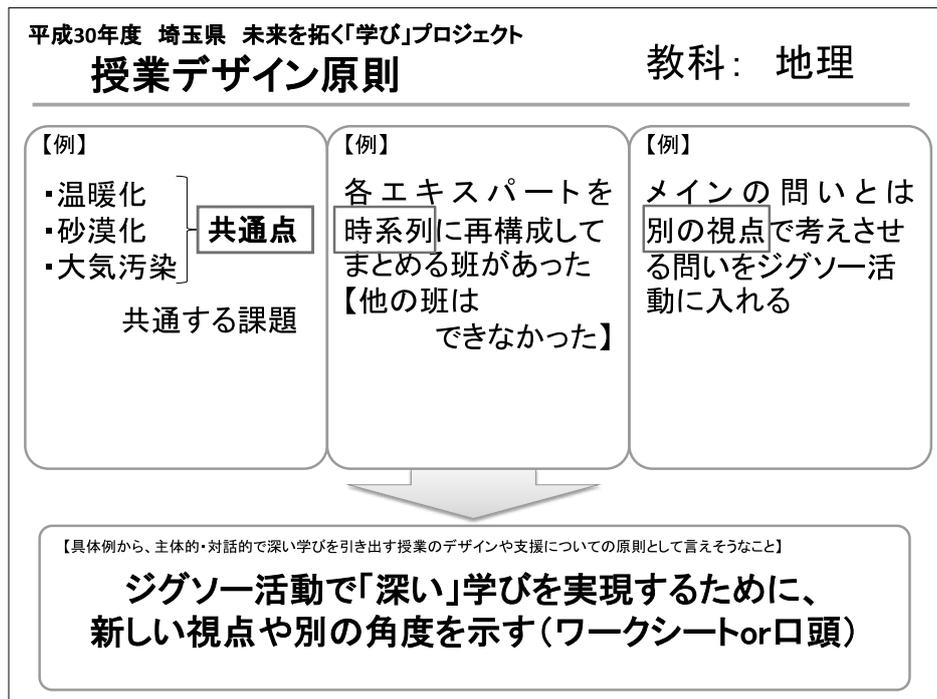


図6：未来を拓く「学び」プロジェクト 地歴部会で作成した授業デザイン原則の例

授業デザイン原則としてまとめられることの質もより一層充実していくことが期待される。

#### ④ 生徒アンケートから

公開研究授業等の際には、生徒に対して新しい学びの「授業の満足度」、「望ましいこの学習方法の頻度」についてのアンケートをお願いしてきた。アンケートの累計回答数も現在の形式のアンケートを開始した平成24年度から7年間でのべ3万3千超名分となり、全体の傾向についてはかなり正確に把握できるようになった。

全体の傾向の分析については平成26年度報告書 pp.22-26 に、またこうしたアンケートを実施する意図については平成24年度報告書 pp.8-9 に詳述している。

今年度については、260の授業でのべ7,256名分の回答を集めることができた。

全体及び様々なサブカテゴリ間の回答の傾向については、過去のデータと変化はなかった。すなわち、進路多様校か進学校かといった別、教科の別は、生徒の「授業の満足度」、「望ましいこの学習方法の頻度」にはほとんど影響を及ぼしていない。

ここでは紙幅の都合で、全体の回答傾向のみを示すこととする。「授業の満足度」、「望ましいこの学習方法の頻度」について、今年度の回答結果と過去7年間合計の回答の分布及び平均値を表20、21に示した。

どちらの項目についても、今年度の結果と過去7年間の結果に大きな変化はない。

全体で70.8%の生徒が「自分たちで考えを出し合って答えを導く学習」を「たのしかった」と感じており、「つまらなかった」と感じる生徒は3.1%（40人学級で1名程度）という結果である。

また、「学校の授業全体のうち、このような進め方の授業（グループでの話し合いを中心にした授業）をどのくらいやりたいですか」という問いについては、全体で69.6%の生徒が「5. 毎日1時間くらい、あるいはそれ以上」、「4. 週に1、2回」、「3. 月に1、2回くらい」グループでの学び合いを中心とした授業を望んでいる。「やりたくない」と答えた生徒は全体で7.3%と、平均にしてみると40人学級で2名程度であった。

	H30年度 (n=7,256)	7年間 (n=33,415)
5. とてもたのしかった	23.5%	22.8%
4. たのしかった	47.3%	49.1%
3. たのしくもつまらなくもなかった	26.1%	25.0%
2. つまらなかった	2.0%	2.0%
1. とてもつまらなかった	1.1%	1.0%
平均値	3.90	3.91

表20：設問①「授業の満足度」の選択肢と回答状況

	H30年度 (n=7,233)	7年間 (n=33,370)
5. とてもやりたい (毎日1時間くらいあるいはそれ以上)	11.3%	10.7%
4. やりたい (週に1、2回くらい)	21.9%	21.3%
3. 時にはやってもよい (月に1、2回くらい)	36.8%	38.4%
2. たまにはやってもよい (学期に1、2回くらい)	22.7%	23.0%
1. やりたくない	7.3%	6.6%
平均値	3.07	3.07

表21：設問②「望ましいこの学習方法の頻度」の選択肢と回答状況

長期間の大規模データの蓄積によって、埼玉県の高등학교において「知識構成型ジグソー法」を用いて研究授業を行った場合のアンケート結果の標準はほぼ確立されたと言える。

他方、個々の実践間では、「授業の満足度」において25%程度、「望ましいこの学習方法の頻度」において37%程度の回答の幅があった。これも昨年度までと同様の結果である。

すなわち、「生徒の学力や教科によって、協調学習の授業に対する満足度に違いが出てくるわけではないが、個々の実践による生徒の満足度にはいくらかの幅がある」ということが示されている。

以上から言えるのは、こうしたアンケートを個々の授業における生徒の学びの見とりの一端、授業デザインの振り返りの一端として活用する可能性である。

表20、21で示した全体のデータと個々の授業でのデータを比べてみると、その実践での生徒の満足度が平均的な研究授業と比べてどうだったかが見えてくる。先生としては満

足いくまとめにならなかった授業でも生徒の満足度は意外と低くなかった、むしろ高かったということもあるかもしれない。逆に、先生としてはスムーズに流れた授業のつもりでも、生徒は「これなら講義でいい」と感じているかもしれない。こうしたアンケートを見とりの一端として活用することも、授業デザインの見直しには有効だろう。

#### ⑤ 今後に向けて

平成29年度版の本報告書で「協調学習の日常化」という本プロジェクトのゴールに向けた今後の課題として、実践頻度の増加を支える既存教材のデータベース化、活用環境の充実、ビジョンの共有と実践の質を支える授業研究の充実の2点を挙げた。

1点目の既存教材のデータベース化については、Classi株式会社の提供するClassi Labを活用した取組が今年度本格的に始動した。サイトの活用方法に課題があり、データベースの構築と活用までには至っていないが、教材の整理は着実に進んでいる。今後の長期的なデータベース活用を見据え、研究開発員の先生方にとって使いやすいサイトのあり方についての調査も行っており、次年度以降見直しを進めていきたい。

2点目の授業研究の充実については、今年度のプロジェクトの重点的な課題として取り組み、従来の研究協議会の形式から一歩踏み出し、次章で紹介するような生徒の学びに基づいた授業研究会を各教科で実施することができた。

具体的には、「授業研究のための見とりの観点シート」を設定することで、授業者が本時身につけさせたい力が明確化し、参加者もその視点でシミュレーションを行うことができるようになった。これにより、参観の視点が、教員の発問や生徒の表面的な活動から、生徒の対話や思考に着目したものに变化した。さらに、研究協議についても、授業者に寄り添った形での協議となったことで、授業者にも参加者にも実りの多い研究協議が実現した。

また、こうした授業研究のファシリテーションについて、CoREFスタッフではなく担当指導主事やマイスターが行える体制を整えたことも大きな成果である。他方、取組の中でファシリテータの間で授業研究のビジョンや進め方の共通認識が不十分な部分も見えてきた。次年度以降も各教科で授業研究会を多く実施しながら、ファシリテーションの質の向上、ファシリテータの拡大を図っていく必要がある。

本事業は次年度5年の区切り目を向かえる。将来に向け、今年度取り組み始めた授業研究のあり方が「知識構成型ジグソー法」の授業に限らず当たり前のものになっていくことが、埼玉県における日常的な主体的・対話的で深い学びの質を支える重要な基盤になるという手応えを得ることができた。そのために、授業研究のビジョンと方法を行政、管理職、マイスター、先生方で共有すること、それを軸に各学校、教科部会での組織的な取組をデザイン、マネジメントすることが次の課題となる。

#### 4. 連携の核を育てる ～本郷学習科学セミナー～

##### (1) 「本郷学習科学セミナー」のねらい

「本郷学習科学セミナー」は平成26年度より開始したCoREF主催の月例研究会である。CoREFと連携する教育委員会および団体において授業改善プロジェクトの中核を担う先生方を主な参加者とし、学習科学に基づく継続的な授業改善を支えるための自治体や学校の枠を超えた学びの場として運営されている。カリキュラムはその年度の参加者と協調学習の授業づくりプロジェクトの現段階の課題に応じてCoREFがデザインしている。

実施目的は以下の2点である。

- ・授業改善プロジェクトに携わる教員や教育行政関係者などの「人はどのように学ぶか」やそれに基づいた授業デザインに関する実践的見識を向上させ、教育委員会および団体におけるミドル・リーダーの養成を支援すること
- ・先生方の授業作りのためのネットワーク・オブ・ネットワークス（以下、N of N）の発展を支援すること

CoREFでは、2つの目的を達成することにより、授業改善のための取組を、学びのデザインと実践及び振り返りのサイクルをとおして「人はいかに学ぶか」や「学びを支援するコツ」について確かな知見の蓄積を目指す「学習科学」の研究として日常化させ、参加者の主体的な取組として継続的に発展させていくことをねらっている。連携教育委員会のうち、埼玉県教育委員会と鳥取県教育委員会では、授業改善を推進するミドル・リーダーの資格認定制度を設け、本セミナーへの参加を認定要件の1つとしている。中核教員の授業力向上に主眼を置いた連携を行っている大分県でも、県内の研究会参加者の一部を本セミナーへ派遣している。こうしたシステムレベルの工夫とも連動させながら、授業改善ネットワークの核を育てる学びの場としてデザイン、運営されているのが「本郷学習科学セミナー」である。

なお、「本郷学習科学セミナー」のこれまでの経緯については、平成26～29年度の報告書第1部第1章（本書巻末DVDにも収録）に詳しい。あわせてご参照いただきたい。

##### (2) スケジュールと参加者

平成30年度の「本郷学習科学セミナー」の実施日と参加者数を表22に示す。今年度も、昨年度に引き続き、原則毎月1回、平成30年5月から平成31年3月まで9回のセミナーを開催した。参加者数は各回20～35名程度であった。

参加者のうち「教員」は主に高校籍の教員、「教育行政」は授業改善プロジェクトの立案や運営に携わる指導主事等、「その他」は連携企業関係者や研究者等である。「教員」は原則、「知識構成型ジグソー法」を用いた協調学習の授業づくりに携わっており、CoREFと連携する教育委員会等の推薦を受けて年間をとおして参加することを前提としている。

今年度の参加者の特徴として、前年度以前からセミナーに継続的に参加している教員の

回 日付	1 5/19	2 6/30	3 7/28	4 8/26	5 9/29	6 11/4	7 12/16	8 1/26	9 3/3	計	
参加者数	20	21	23	26	24	29	35	28	執筆時未実施	66	
内 訳	教員 (継続)	10 (4)	12 (3)	9 (6)	10 (9)	9 (6)	11 (7)	12 (15)		14 (6)	21 (22)
	教育行政	2	1	2	2	2	3	4		3	10
	その他	4	5	6	5	7	8	4		5	13

表 22：平成 30 年度本郷学習科学セミナーの実施日と参加者数

割合が増えていることを指摘できる。継続参加教員は各県のプロジェクトで精力的に協調学習の授業づくりの取組を続けてきた教員であり、長い参加者では初年度から5年間継続してセミナーに参加している。各自治体学校等の授業改善プロジェクトの様々な場面で活躍できる厚い中核層を形成するには、こうした教員とあらたに授業改善の核となろうとする教員が学び合える場が有用であると考えられる。そこで今年度は、継続参加を推奨する方針を事前に連携教育委員会等とも確認し、内容にもこの方針に即した変更を加えた結果、一定の成果を得ることができた。

### (3) 平成 30 年度「本郷学習科学セミナー」年間カリキュラム

平成 30 年度の年間カリキュラムを表 23、24 に示す。カリキュラムは、互いに関連する下記三要素から構成されている。ローマ数字は表中のプログラム末尾と対応している。

- I. 「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりの基本的な考え方に関する演習
- II. 学びの質を支える授業研究の考え方や進め方に関する演習
- III. 学びの質を支える授業研究の実践

今年度のカリキュラムデザインの特徴の第1は、II・IIIのプログラムを充実させた点である。第1章3節までで述べたように、今年度は自治体との連携による授業づくりプロジェクトにおいて学びの質を支える授業研究の充実に取り組んだ。これを受け、研究の中核となる教員が、学習者がいかに学ぶか／学んだかの視点で授業をデザイン、実践・参観し、振り返る授業研究を率先して実践できるようになることを今年度のセミナーの重点目標とした。そこで年間カリキュラムは、学びの質を支える授業研究の充実に重点化したものとなった。

また、今年度のカリキュラムのもう1つの特徴は、新規参加者を主な対象とするプログラムを設定した点である。新規参加者向けのプログラムは表 23 の網掛けで示した。プログラムは、Iに関する内容と、IIのうち、授業中の生徒の対話に基づいて学びのプロセスを評価する授業の振り返り（多面的対話分析）の手続きを確認する内容である。これらのプログラムは、昨年度以前から継続的に実施してきたもので、これまでのセミナーをと

回	プログラム	概要
第1回	演習「協調学習プレゼンテーション作成①」(I) 「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりにおけるデザイン原則の言語化①(III) 対話分析事例紹介(II)	協調学習の授業づくりの基本的な考え方に関する説明の作成と、過去の授業案&教材の分類から、教科の「デザイン原則」を見出す活動を行い、これまでの授業改善プロジェクトをとおして今見えてきていることを各自が言語化した。
第2回	演習「対話に基づく学びのプロセス評価①～模擬授業による多面的対話分析の体験～」(II)	授業中の対話の中身から児童生徒の学習過程を把握し、把握した事実に基づいて授業デザインの成果や課題をより具体的に明らかにするための「多面的対話分析」による学習評価及び授業の振り返りの一連の手続きを体験的に学んだ。
第3回	演習「主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究」(II)	1つの授業実践を題材に「生徒の学びを想定した授業案の事前検討」、「授業中の子どもの学びの見とり」、「子どもの学びに基づく授業の振り返り」を実際に行い、質の高い授業研究の進め方とファシリテーションの留意点について検討した。
第4回	教科部会による授業デザイン検討および実践報告(III) 演習「対話に基づく学びのプロセス評価②～AL型授業の質を上げるための学習評価～」(II)	今年度の授業改善プロジェクトで実践された高校社会の授業で記録した実データを用いて、「多面的対話分析」による授業の振り返りを行った。
第5回	生徒の学びのシミュレーションを中心にした授業デザイン検討(III)	違う教科の教員を生徒役に簡単な模擬授業を行った後、「生徒はどう学びそうか」の検討を行い、それを基に授業デザインの改善点を考える「シミュレーション」式の授業案検討を実際に行い、手続きを体験的に学んだ。
第6回	実践報告ラウンドテーブル①(6実践)(III) 教科部会による授業デザイン検討および実践報告(III)	教科を超えたやや大きなグループで実践報告と検討を行い、一人ひとりの授業づくり・子どもの学びの評価への多様な視点を交流し、深めた。 併せて、2学期以降の授業実践に向けて教科部会での授業案検討を継続した。
第7回	実践報告ラウンドテーブル②(4実践)(III) 多面的対話分析に基づく授業の振り返り①～高校国語の事例～(III)	引き続きラウンドテーブルを実施すると共に、「多面的対話分析」を、実際にセミナーの参加者が実践した授業の振り返りに活用した。生徒の対話を分析して学びの過程を見とり、見とりに基づいて授業デザインの成果と課題を検討した。

表 23：平成 30 年度本郷学習科学セミナー 年間カリキュラム (1/2)

回	プログラム	概要
第8回	実践報告ラウンドテーブル③(7実践)(Ⅲ) 「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりにおけるデザイン原則の言語化②(Ⅲ)	引き続きラウンドテーブルを実施すると共に、埼玉県の協調学習マイスター教員の実践報告を題材に、次年度につながる課題として「協調学習」の日常化に関する協議を行った。併せて、今年度の実践における学びのエピソードの洗い出しに基づき、教科の「デザイン原則」の見直しを行った。
第9回 (予定)	演習「協調学習プレゼンテーション作成」②(I) 多面的対話分析に基づく授業の振り返り②～中学校理科の事例～(Ⅲ)	協調学習の授業づくりの基本的な考え方に関する説明の作成をとおして、参加者が今年度セミナーに参加しながら研究に取り組むことで見えてきたことを言語化する。今年度の授業改善プロジェクトで実践された小中学校の授業で記録した実データを用いて、「多面的対話分析」による授業の振り返りを行う。

表 24：平成 30 年度本郷学習科学セミナー 年間カリキュラム (2/2)

おしてミドル・リーダーの学びの出発点としての有効性を確認してきた内容となっている。

#### (4) 各回活動の実際

次に、1回のセミナーの実際の展開例を示す。取り上げるのは、平成30年度に開発した「演習『主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究』」を中心とした第3回の事例である。なお、紙幅の都合上、本節では一例を詳述するが、本報告書第2章第3節では仮説検証型の授業研究における事後の研究協議の進め方の例として第7回について紹介している。

第3回の演習では、授業研究において大事にしたい視点について共通理解し、「『子どもがどう学びそうか』を具体的に想定することを中心とした授業の事前検討」と「実際の子どもの学びと想定を比較しながら授業デザインや支援を見直す事後検討」の手続きを体験的に学び、こうした授業研究をファシリテータとして運営する際のポイントについて考えた。

表25に活動の流れを示す。参加者はまず目指す授業研究のねらいと意図、PDCAサイクルの各ステップの進め方について講義を聞いたうえで、実際に検討対象となる授業を体験した。その後、事前検討、授業中の生徒の学びの中身に目を向ける授業観察、授業後の研究協議を体験的に学ぶ3つの演習に取り組んだ。一連の手続きを1日で体験するため、授業の参観はグループの対話内容が聞き取れる動画を活用して行った。

題材としたのは高1地理Bでセミナー参加者の1人が実践した「なぜドバイはヒト・モノ・カネが集まる都市になったのか？」の授業である<sup>2</sup>。授業のねらいはドバイの急速な発展を例に、人や物流の拠点となりうる環境の構築（治安整備、外国企業や観光客の積極的な誘致）を柱とした都市の発展の仕組みについて理解することであった。

<sup>2</sup> この授業の授業案、教材、授業者の振り返りは、本報告書付属DVDの「開発教材」「地歴S925ドバイ」に収録されている。

時間	内 容
20分	講義「主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究」
110分	演習①：子どもの学びのシミュレーション ○授業体験（40）／○シミュレーションによる学習の予想（40）／○授業者より、ねらい、想定、見とりの観点の共有（10）／○授業デザインの改善案（20）
70分	昼休み
65分	演習②：子どもの学びの見とり ○導入（5）／○授業動画を視聴（50）／○前後記述の共有（10）
10分	休憩
65分	演習③：子どもの学びに基づく授業の振り返り ○導入（5）／○協議1：授業者の事前の期待や想定と比べて、子どもの学びの様子について見えてきたこと（小グループ（15）交流（10）／○協議2：子どもの学びの様子を根拠にして、よりねらいに向けた学びを引き起こすために授業デザインや支援の工夫として考えられること（小グループ（15）交流（10））／○授業者から（5）／○各自の振り返り（5）
10分	休憩
40分	協議「質の高い授業研究の実現に向けて」 ○今日行ったような授業研究を実際に、教科部会や学校で行うとしたとき、各ステップで①参加者の活動がねらいとズレるとしたら？②ファシリテータはどんなことに注意したり、何を強調したりすればよいか（小グループ（25）交流（15））

表 25 平成 30 年度第 3 回本郷学習科学セミナーのプログラム（カッコ内は時間（分））

次に、参加者の活動中のワークシートの記述内容に基づいて、学習成果を確認してみたい。表 26 に示したのは、今年度新規にセミナーに参加している数学の教員が書いた「授業観察メモ」と「事後協議メモ」、「各自の振り返り」の抜粋である。

授業観察メモ	事後協議メモ	各自の振り返り
エキスパート B ・税金がかからない→物流量多い→海外企業たくさん来る （アメリカ 25%、自動車税の例をもとに） ・飛行機：乗り換え（→「ついで感覚」）でたくさん来る ⇒「港と空港が作られたことで、人や海外の企業が気安くなった。輸入品に税金がかからないから海外企業が来る」	ドバイに関しての既有知識が少ない。 太字を読み・伝える意識 →「納得をしていないのに質問しない」をさせないシステムづくり、授業者が生徒の持っている知識の想定をしっかりとしておくことが大事	◎事前に生徒の予想する解答を想定しておくことが、1つの授業のサイクル（PDCA）を回すうえでとても重要になる（PDCAのバックボーン）ことがわかった→他者の授業を観察する際にも重要 ○生徒の既有知識、課題の切り口による授業が大きく変わる

表 26 演習『主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究』受講者ワークシート記入例（抜粋）

この参加者がシミュレーションや協議を行った班には地歴の教員はいなかった。にもかかわらず、記述内容を見ると、参加者が専門外の地歴の授業観察において、班の雰囲気や対話の活発さといった見た目の学習活動の様子のみならず学びの中身に目を向け、生徒が資料中のどの知識をどう関係づけ、どう理解していたかを具体的に見とることができていることがわかる。また、事後の研究協議では、見聞きした学びの事実をもとに生徒の既有知識や資料の読み方の特徴を把握し、把握したことに基づいて授業デザインの指針を見出していることを確認できる。更に、一連の活動の振り返りでは、題材とした1つの授業実践例を超え、自身の授業づくりや参観者として授業から学ぶためのポイントを言語化できている。

こうした成果が確認できたことから、第3回のセミナーは、参加者にとって、事前の想定と学びの事実の見とりにフォーカスした授業研究の手続きによって普段知らない子どもたちの複雑で多様な学びが見とりやすくなり、授業研究の参加者一人ひとりが教科や専門性の差を超えて次の授業につながる気づきを得やすくなることを実感できる機会になったのではないかと考えられる。

#### (5) 成果と課題

以上のように、平成30年度の本郷学習科学セミナーでは、年度を超えた継続参加を推奨する方針の共有と、学びの質を支える授業研究の充実に重点化したカリキュラムの改善によって、質の高い授業研究の中核として様々な局面で活躍できる多様なミドル・リーダーの学び合いの場として一定の成果を得ることができた。ただし、学びの質を支える授業研究の充実は協調学習の授業づくりプロジェクトの継続的な課題である。そこで次年度も、今年度の方針を継続し、授業研究の質の向上と普及の両立を担うミドル・リーダーの育成を目指して、セミナーの一層の充実に図りたい。

そのための具体的な課題を以下に2点あげる。1点目に学びの質を支える授業研究の充実の視点からプログラムの更なる改善を図ることである。例えば、今年度、各参加者の授業研究の一部として行うプログラムである「実践報告ラウンドテーブル」や「教科部会による授業デザイン検討および実践報告」は、進行の指針を特に提示しなかった。しかし、これらにおいても学びのシミュレーションによる授業デザイン検討や、見とりの観点を共有した研究協議のツールやシステムの活用を促すことにより、学びの質を支える授業研究の考え方や進め方に関する演習と実際の授業研究の結びつきを更に強くすることができるだろう。

次に、本セミナーのゴールイメージについて関係者と共通理解を深めることである。今年度は継続参加者の割合が増加したものの、まだその数は多くはない。例えば、埼玉県の場合、過去にセミナーに参加した教員等のうち、今年度1回以上セミナーに参加した教員等は半数に満たない。要因の1つとして、セミナーがミドル・リーダーの資格認定制度の一環として活用されている影響で関係者の間に「資格を取得したらセミナーは卒業」という意識が生まれている可能性も考えられる。各自治体学校等の授業改善プロジェクトにおいて質の高いかつ厚い中核層を形成するためにも、ミドル・リーダーの継続的な学び合いの重要性に関して更なる共通理解を図っていくことが大切になるだろう。

## 5. 新しい展開

### (1) ジュニアドクター育成塾事業

#### ①事業の概要

「ジュニアドクター育成塾事業」は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が主催する次世代の科学技術人材育成の事業である。平成29年度から最大5年間の見通しで、大学や企業への委託事業としてスタートした。

CoREFは東京大学の企画実施組織として、NPO法人「日立理科クラブ」他と連携し、「アクティブ・ラーニングと専門家シニアによるきめ細かい指導を活用したジュニアドクターの育成」という企画を実施している。本企画の目標は、大学の持つ高度専門知及び質の高いアクティブ・ラーニング型教育プログラム開発ノウハウ及び教材リソースと、理数専門家シニア人材のきめ細かな指導力との連携によって、科学的なものの見方、考え方と未来を拓く資質能力を併せ持ち、自ら「問うべき問い」を立てて仲間と探究できる科学者人材を育成すると共に、質の高い高度人材育成プログラムのモデルケースを示すことである。育成したい人材の具体像は協調学習の授業づくりプロジェクトで育てたい児童生徒像と重なっている。

#### ②平成30年度の活動

本事業における受講生の育成のためのカリキュラムは、JSTから提示された事業スキームに即して、2年以上の受講を要する2段階のプログラムからなる（図7）。平成30年度は、日立市近隣の小6～中2生42人が新規に入塾し、第1段階教育プログラムを受講した。また、昨年度入塾生で第2段階選抜試験を通過した受講者のうち希望者7名が、第2段階教育プログラムを受講した<sup>3</sup>。

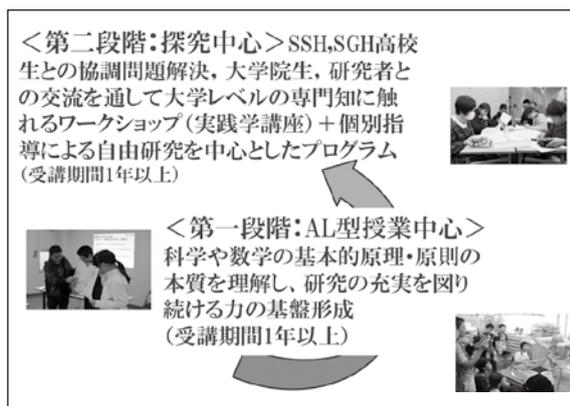


図7 東京大学「ジュニアドクター育成塾」概要

第1段階教育プログラムは理数系専門家シニアによる実験・講義・研究施設訪問と、CoREFによる主体的、対話的な学びをとおして科学や数学の基本的な原理・原則の本質的理解を支える「知識構成型ジグソー法」授業という2つの柱から構成されている。第2段階教育プログラムは、理数系専門家シニアが指導する「自由研究」とCoREFの主催する「実践学講座」を主な内容としている。各教育プログラムは「日立理科クラブ」の運営する学校外の科学教室と合同で実施されている。

<sup>3</sup> 平成29年度の活動については、平成29年度の報告書第1部第1章（本書巻末DVDにも収録）を参照いただきたい。

課題	有機物を燃やすと、どのようにして二酸化炭素が発生するのだろうか？
エキスパート A	有機物のもとになる原子
エキスパート B	化合物
エキスパート C	燃える（燃焼）とは？
期待する解答の要素	①有機物は、炭素の化合物である②有機物内の炭素原子が空気中の酸素や有機物内の酸素と化合して二酸化炭素が発生する③有機物内の水素原子が空気中の酸素と化合して水が発生する

表 27 「有機物の燃焼」の授業デザイン<sup>4</sup>

表 27 は、第 1 段階教育プログラムとして実践した中学 1 年生対象の理科の「知識構成型ジグソー法」授業デザインの 1 例である。第 1 段階教育プログラムでは、このように学校の理科や数学の既習事項のうち理数情報分野の学習の基礎となるモデルや法則を活用することによって解決できる課題を軸に、主体的・対話的で深い学びを引き起こすことをねらった授業を多く設定している。

原子・分子のモデルや力の及ぼし合いの法則といった基礎的なモデルや法則は、学校の授業でも繰り返し扱われるため、見たことのある子どもが多い。しかし、モデルや法則を課題解決に使って見直す経験は、知識として見知っているところを超えてモデルや法則の精緻化に貢献する。そして、そうした学びの深まりに伴って、子どもたちは広く様々な問題に柔軟にモデルや法則を適用し、事物や多様な現象の仕組みを自身で解明できるようになっていく。東京大学「ジュニアドクター育成塾」のカリキュラムは、第 1 段階での理解の深まりから「こんな問題にもモデルを活用できるのでは？」「このモデルを使うとこんな技術を開発できるのでは？」という次の問いが見えてきたら、第 2 段階「自由研究」や「実践学講座」でそれを更に探究できるような学びのプロセスを想定してデザインされている<sup>5</sup>。

こうした学習機会は、理数情報分野の学習内容に高い興味や関心を持った児童生徒だけに有益というわけではなく、学校外の科学教室においてこうした学習経験を得るチャンスがあれば、教室でも対話をとおして他の児童生徒に学びの成果は還元され、理数情報分野全体の学びの質の向上つながっていくことが期待できるだろう。

なお、CoREF 担当部分のうち、「実践学講座」については、本節 (2) で紹介する。また、理数系専門家シニアによる教育プログラムの実際については CoREF ウェブサイトの

<sup>4</sup> 本授業の授業案・教材・振り返りシートは「理科 A923 有機物」として付属 DVD に収録されている。

<sup>5</sup> 学習をとおした「問い」の創発に関する本事業の成果は、齊藤・飯窪・堀 (2018) 「理解深化を促進する協同問題解決活動による問いの生成支援」、『STEM 教育研究』vol. 1、53-62. に詳しい。

「ジュニアドクター育成塾」に関するページからご覧いただける。次年度は、系統的関連づけの視点からカリキュラムの継続的改善を図ると共に、学校外の科学教室という特性を生かして学びの質を支える授業研究を更に充実させていきたい。

## (2) 大学入学者選抜改革推進委託事業～新しい高大連携プロジェクト～

### ①事業の概要

新しい展開の事例として次に取り上げるのは、大学入学者選抜改革推進に関する文科省委託事業「高大での教育改革を目指した理数分野における入学者選抜改革」<sup>6</sup>である。本事業は平成28年度から3年計画の事業として、10の大学の連携事業としてスタートした。

この事業の目的は、学習指導要領改訂による理数教科の改革をふまえ、大学入試を視野に、理数分野における思考力等を多面的・総合的に評価する手法や問題開発等を行うことである。東京大学は「理工系人材に求められる知識、資質・能力」を明らかにする研究グループに参加しており、CoREFが実務を担っている。

CoREFの協調学習の授業づくりプロジェクトの主眼は小中高等学校の日常の授業における学びの質の向上にある。しかし、日々の授業実践は、良くも悪くも高校や大学の「入学者選抜」すなわち入試に影響されて成立している。そのため、入試のあり方の検討も授業の改善を考えるうえで不可欠な課題と言える。ただしこのとき、高校大学の関門としての性格のみに着目してしまうと、「入試は一度限りの画一的な一斉試験で正答数を競う機会」という前提での検討になってしまいがちである。これに対しCoREFでは、入試を「子どもたちの生涯に亘る学びのプロセスの重要な局面の1つ」とみなす観点から、一人ひとりが積み上げてきた多様な学びの力をできるだけ引き出し、多面的に見とる機会としての入試のあり方を検討したいと考えている。これは、中央教育審議会答申における高大接続改革の基本的な考え方と通ずるものである<sup>7</sup>。

こうした考え方をベースにCoREFが本事業の一環として行ってきたのが、アクティブラーニング型授業を中核とした高大連携「実践学講座」である。この講座では、東京大学の様々な研究主題をテーマに、高校生と大学生や院生がともに探究しうる実践的な課題を設定し、「知識構成型ジグソー法」による授業と、研究室訪問や専門家とのディスカッションなどを組み合わせたプログラムを実施してきた。今年度は、本学工学部や革新知能統合研究(AIP)センターと連携し「人工知能」を主題とした新規プログラムの開発・実施と、これまで開発したプログラムの汎用化に取組んだ<sup>8</sup>。

<sup>6</sup> 事業の枠組等は「文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業」のウェブサイトを参照いただきたい [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/senbatsu/1397824.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1397824.htm)

<sup>7</sup> 「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」(2015年12月22日)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm)

<sup>8</sup> 本事業に関連するこれまでのCoREFの取組については、平成28・29年度の報告書第1部第1章(本書巻末DVDにも収録)を参照いただきたい。

## ②平成30年度の取組

今年度新規に開発した「人工知能」に関する「実践学講座」のプログラムの実際を表28に示す。今回のプログラムでは、現在様々な領域で実用化されつつある「人工知能(AI)」について概念的に理解し、社会の中でどう使っていくかについて具体的な見通しを得ることをねらった。プログラムを受講したのは、CoREFと連携する自治体等から募集に応じて集まった東京都と埼玉県の公立高校1・2年生36名と、本節(1)で述べた「ジュニアドクター育成塾」第二段階教育プログラムの一環として参加した中学生6名である。

講座では、学年や学校を超えてのグループワークや専門家の講義、ポスターセッション等、様々な活動からなる一連のプログラムをとおして、参加者の多様な学びの力を引き出すことができた。学びの見とりの機会としては、授業前後理解比較、設問のあるワークシート、アンケート等をプログラムに組み込み、各参加者が協調的な問題解決や資料読解、講義を経て自分自身の考えをどのように変えていくか、学習プロセスの多面的な把握を試みた。その結果、知識・理解面では、92%の参加者がAIや情報学への見方の変化を自覚したこと、意欲面では92%の参加者が大学の学びへの意欲を高めたことなどが見えてきた。

平成30年度に取組んだもう1つの課題は、既存プログラムの汎用化である。「実践学講座」はこれまで大学においてCoREFスタッフや専門家の主導で実践してきたが、こうした講座を各高校の教育活動の一環として実践できれば教科書で学ぶ理数情報分野の学習事項を広い視野から見直し、大学の学びへの展望をひらく助けとなり、高校と大学の学びを寄り円滑に接続することにつながると考えられる。そこで今年度は、取組に関心のある高校理科の教員と連携し、前年度に開発した「物理を学ぶ、物理を作る～高校物理から宇宙研究の最先端へ～」のプログラムを、ダークマターを主題とした「知識構成型ジグソー法」演習を中心とした50分×2コマの授業にして実践し、手応えを得ることができた<sup>9</sup>。

本事業は今年度で終了するが、大学などの様々な評価主体と共に、「一人ひとりの生涯

<p>【はじめの問い】「AIが得意そうなこと、できること」と「人間が得意そうなこと、できること」</p> <p>【「知識構成型ジグソー法」演習①】「AIはなぜゲームに強いのか」</p> <p>【「知識構成型ジグソー法」演習②】「AIに難しいこと、どんなこと？」</p> <p>【講義①】「ロボットは東大に入れるか」(NTTメディアインテリジェンス研究所主任研究員 東中竜一郎先生)</p> <p>【講義②】「知能の理解と実現」(東京大学大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究センター教授 橋田浩一先生)</p> <p>【ポスターセッション】「AIについて見えてきたこと、もっと知りたいこと」</p> <p>【終わりの問い】：改めて、「AIが得意なこと、できること」と「人間が得意そうなこと、できること」／「AIを社会の中でどう使えるか？」—あなたの今の考えは？</p>
---

表28 平成30年度実践学講座「AIって何?～AIは社会の中でどう使えるか～」

<sup>9</sup> 本授業の授業案・教材・振り返りシートは「連携S905ダークマター」として付属DVDに収録されている。

に亘る質の高い学びのプロセスをいかに保証するか」という視点から入試のあり方について検討するための取組は、協調学習の授業づくりプロジェクトの質を支えるうえで、今後重要な活動の1つになるだろう。

### (3) JICA 草の根技術協力事業「埼玉版 AL 型授業による授業改善のための教員研修支援」

#### ①取組の概要

「埼玉版アクティブ・ラーニング型授業による授業改善のための教員研修支援」は、平成28年度から独立行政法人国際協力機構（JICA）による3年間の「草の根技術協力事業」として埼玉県教育委員会がフィリピン共和国教育省第7地域事務所（セブ地域）と取組んだ事業である。平成30年度は事業最終年度にあたる。事業の目的は、「知識構成型ジグソー法」を活用して協調学習の実現を図る授業研究とそのための教員研修を導入・自走させることにより、教員の授業力を向上させ、教育の質の向上をはかることである。

研修は平成29年度から本格的に実施され、CoREFが企画・運営に協力した<sup>10</sup>。平成29年度は5月と10月に二度の「埼玉研修」、8月と12月に二度の「専門家派遣」を実施した。受講者はセブ州の教育関係者31名であった。受講者が来日する「埼玉研修」では、講義や演習・授業参観をとおして「知識構成型ジグソー法」の授業の進め方と協調学習の授業づくりの基本的な考え方について学ぶと共に、自分たちの学校で実践するための授業案を作成した。日本側関係者がセブを訪問する「専門家派遣」では、CoREFスタッフと埼玉県「協調学習マイスター」認定教員、「未来を拓く『学び』プロジェクト」に携わる行政関係者のチームがパイロット校3校で授業を参観し、セブ州の研修受講者と事後協議を行った。

これを受け平成30年度は、5月に一度の「埼玉研修」、8月と10月に二度の「専門家派遣」を実施した。プログラムは表29のとおりである。

研修を受講したのは、平成29年度の31名の受講者のうち、各パイロット校の中核教

5月 埼玉 研修	1 平成29年度の振り返りと課題確認～協調学習の授業づくり説明スライド作成をとおして～ 2 子どもの学びのシミュレーションによる授業案事前検討（4の授業実践を想定して） 3 見とりの観点を意識した授業参観・事後研究会の体験（埼玉県久喜市立江面第二小学校） 4 見とりの観点を意識した授業参観・事後研究会の実践（埼玉県立和光国際高等学校） 5 セブ州における「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりプロジェクトの計画 6 授業づくりプロジェクトの素材づくり（説明スライド、リーフレット等）
8・10月 専門家 派遣	8月：パイロット校で研修受講者による見とりの観点を意識した授業研究会（近隣公開） セブ科学技術高校 「科学研究における主題の設定」（10年生） MaryAnn D. Bacalso 教諭 マンダウエ総合高校 「火山帯形成の仕組」（11年生） Roberto D. Samson, Jr. 教諭 10月：研修受講者が講師を勤め、協調学習の授業づくり入門研修会（1日）を、フィリピンの教員研修週間を活用して実施。実施状況を参観。

表29 「埼玉版 AL 型授業による授業改善のための教員研修支援」平成30年度プログラム

<sup>10</sup> 平成29年度の本事業については、平成29年度の報告書第1部第1章（本書巻末DVDにも収録）を参照いただきたい。また、本事業の一環としてセブ地域のパイロット校で行われた「知識構成型ジグソー法」の授業案等の一部を本報告書付属DVDに収録している。

員と管理職、及び取組の支援の中核となる教育行政関係者あわせて10名である。10名は今後学校や地域で授業研究や教員研修のミドル・リーダーとなりうる受講者であった。

今年度の研修は、前年度に学んだ協調学習の授業づくりを継続的な授業改善のための授業研究へ発展させ、パイロット校やその周辺で着実に普及させることを目指したプログラムとした。「埼玉研修」では、CoREFによる講義演習及び埼玉県内で協調学習の授業づくりプロジェクトの一環として行われる授業研究への参加をとおして、「知識構成型ジグソー法」を活用した授業研究の進め方とねらいについて学ぶと共に、フィリピン国内で実際に入門研修や授業研究会を実施するための計画や素材の作成を行った。

「専門家派遣」では、まず8月にパイロット校で研修受講者が実施した公開授業研究会に参加し、授業研究の進め方や視点について確認した。10月には、研修受講者によって実施された「協調学習の授業づくり入門研修会」に参加した。研修会はフィリピンの教員研修週間を活用し、地元教育委員会の指導主事や、近隣諸学校の校長を含めた多くの教育関係者を集めて実施されたものである。CoREFや埼玉県教育委員会関係者は研修参加者との協議を通じて目指す授業研究のビジョンやコツについて共通理解を図ると共に、研修を実施した教員等とも協議を行い、取組の自走へ向けての課題を明らかにした。

## ②取組の成果

3年間の事業の成果は2点に整理できる。1点目に、事業をとおしてセブの研修受講者が、協調学習の授業づくりをとおした教員の授業力向上プロジェクトを自分たちの実情に即して進めていくための具体的な見通しを得られたことである。実際に研修終了時の受講者ワークシートには以下のような記述がみられた（日本語訳）。こうした成果が得られたことは、事業が「知識構成型ジグソー法」という手法や協調学習の理論の伝達にとどまらず、研修受講者を主体的な授業改善の取組へと動機づける機会となったことを示すと言える。

「教師がどう教えるか」から「子どもたちはどのように学ぶか」へと授業づくりの視点を転換するために、授業者だけでなく参観者も同じ視点で授業デザインと振り返りを行うことが重要だと気づいた。（パイロット校の教員（高校数学））

授業者だけでなく、すべての教員が広い心で、かつ主体的に1回の授業研究に参加することが重要である。授業研究を年間計画に位置づけることが課題だが、解決できるだろう。（地域事務所指導主事）

2点目に、本事業が埼玉県「協調学習マイスター」や教育行政関係者にとっても、主体的、対話的で深い学びの実現を図る授業づくりとその支援について、単に「刺激を受ける」ことを超えて学びを深める機会になった点である。昨年度の報告書では、事業に参加した埼玉県の教員の感想も紹介している。こうした成果が得られたことは、「知識構成型ジグソー法」や共通の授業研究の進め方を媒介として、教育関係者が国や立場を超えてビジョンや視点を共有し、教育の質向上のために学び合える可能性を示唆していると言える。本事業は今年度で一旦終了を迎えるが、こうした事業を有効活用することは、協調学習の授業づくりプロジェクトに更なる広がりや深まりの機会を創出する1つの手立てとなるだろう。

## 6. 今年度の研修実施状況

今年度 CoREF で実施した研修、講演等の一覧（全 132 回）を表 30、31 に示す。

なお、この他に今年度のべ 94 校で実施された埼玉県「未来を拓く『学び』プロジェクト」に係る研究授業でも可能な限り指導講評や授業研究のファシリテーションを行った。

番号	日時	主催	名称	主な対象	カテゴリ
1	4月19日	鴻巣市教育委員会	校内研修会（鴻巣市立常光小学校）	校内教員	校内研修
2	4月26日	大分県立三重総合高等学校	校内研修会	校内教員	校内研修
3	5月2日	飯塚市教育委員会	平成30年度飯塚市協同学習推進に係る研修会（校長研修会）	市内小中学校長	管理職研修
4	5月11日	京都市教育委員会	京都市教育委員会 協同学習勉強会	指導主事	指導主事研修
5	5月16日	埼玉県教育委員会	平成30年度 高等学校初任者研修 授業力向上研修Ⅰ	県内高等学校初任者	年次研修
6	5月19日	東京大学 CoREF	平成30年度 第1回本郷学習科学セミナー	関係小中学校教員/指導主事	専門研修
7	5月21日	鳥取県教育センター	平成30年度 教科・領域指導力向上セミナー「学習科学メンター育成コース」1	県内教員	専門研修
8	5月21日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業（フィリピン）第3回埼玉研修 講義・演習「知識構成型ジグソー法について①」	フィリピン教育省教育行政担当者	専門研修
9	5月22日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業（フィリピン）第3回埼玉研修 講義・演習「知識構成型ジグソー法について②、③」	フィリピン教育省教育行政担当者	専門研修
10	5月23日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業（フィリピン）第3回埼玉研修 会場校研修（久喜市立江面第二小学校）	フィリピン教育省教育行政担当者	授業研究会
11	5月23日	大分県教育委員会	平成30年度 「第1回深い学び研究会」	授業改善の推進的役割を担う高等学校教員	専門研修
12	5月26日	埼玉県教育委員会	平成30年度 未来を拓く「学び」プロジェクト 指導主事カンファレンス	指導主事	指導主事研修
13	5月28日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業（フィリピン）第3回埼玉研修 講義・演習「知識構成型ジグソー法について④、⑤」	フィリピン教育省教育行政担当者	専門研修
14	5月29日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業（フィリピン）第3回埼玉研修 会場校研修（埼玉県立和光国際高等学校）	フィリピン教育省教育行政担当者	授業研究会
15	5月30日	埼玉県教育委員会	平成30年度 高等学校初任者研修 授業力向上研修Ⅱ（前半）	県内高等学校初任者	年次研修
16	5月31日	柏市教育委員会	平成30年度 柏市小中学校教職員研修	市内小・中学校5年経験者	年次研修
17	6月2日	厚木市教育委員会	平成30年度 厚木市教育研究所 「先生のための寺子屋（知識構成型ジグソー法）」	市内立小・中学校教職員	専門研修
18	6月6日	埼玉県教育委員会	平成30年度 高等学校初任者研修 授業力向上研修Ⅱ（後半）	県内高等学校初任者	年次研修
19	6月8日	長野県総合教育センター	平成30年度 長野県高等学校初任者研修「3年次教職研修」	県内高等学校初任者	年次研修
20	6月9日	埼玉県教育委員会 東京大学 CoREF	平成30年度 未来を拓く「学び」プロジェクト 第1回カンファレンス	プロジェクト参加教員	専門研修
21	6月11日 12日	せらにし教育研究会	せらにし教育研究会 協同学習研修会（せらにし小学校、世羅西中学校）	校内教職員	授業研究会
22	6月12日	埼玉県教育委員会	平成30年度 20年経験者研修	県公立学校教職員のうち20年経験者	年次研修
23	6月13日	鴻巣市教育委員会	授業研究会	校内教員	授業研究会
24	6月19日	有田川町教育委員会	平成30年度 新しい学びプロジェクト 授業研究会	町内教職員	授業研究会
25	6月19日	久喜市立江面第二小学校	第2回授業研究会	校内教員	授業研究会
26	6月28日	大阪府立松原高等学校	協同学習研修会	校内教員	校内研修
27	6月29日	鳥取県教育委員会	「生徒の学びを力を引き出す授業デザイン」研修会	県公立高等学校等学校教員	専門研修
28	6月30日	東京大学 CoREF	平成30年度 第2回本郷学習科学セミナー	関係小中学校教員/指導主事	専門研修
29	7月2日	鳥取県教育センター	平成30年度 教科・領域指導力向上セミナー「学習科学メンター育成コース」2	県内教員	専門研修
30	7月3日	安芸太田町教育委員会	校内研修会（戸河内小学校）	校内教員	校内研修
31	7月4日	安芸太田町教育委員会	協同学習研究会	町内小中学校教員	専門研修
32	7月3日	飯塚市立菰田小学校	校内研修会	校内教員	校内研修
33	7月4日	飯塚市立鮎田小学校	校内研修会	校内教員	授業研究会
34	7月6日	埼玉県立総合教育センター	平成30年度 協同学習入門研修会	県内公立小・中・高・特の教員	専門研修
35	7月7日	東京大学 CoREF	科学研究費基盤8「評価の刷新」進捗報告シンポジウム	教員、教育委員会関係者、研究者等	一般向け
36	7月10日	九重町教育委員会	平成30年度九重町協同学習管理職等研修会	町内各校の校長及び教頭	管理職研修
37	7月10日	豊後高田市教育委員会	「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習・指導方法改善実践研修会	校長・教頭及び校長が推薦する教職員等	授業研究会
38	7月11日	大分県教育庁	平成30年度 「第2回深い学び研究会」	授業改善の推進的役割を担う高等学校教員	専門研修
39	7月13日	山形県教育庁	山形県立東桜学園中学校・高等学校 SSH 運営指導委員会	運営指導委員会、校内教員	専門研修
40	7月13日	飯塚市教育委員会	平成30年度飯塚市協同学習推進に係る研修会第1回	町内教職員	専門研修
41	7月17日	竹田市教育委員会	平成30年度 協同学習「知識構成型ジグソー法」研修会	市内教員	専門研修
42	7月18日	竹田市教育委員会	校内研修会（竹田南部中学校）	校内教職員	授業研究会
43	7月22日	国立附属学校授業づくりネットワーク事務局	次世代の学びと評価の研究会	国立附属学校教職員	専門研修
44	7月23日	越谷市教育委員会	平成30年度 越谷市立小・中学校中堅教諭等資質向上研修	市内中堅教諭（小・中）	年次研修
45	7月28日	東京大学 CoREF	平成30年度 第3回本郷学習科学セミナー	関係小中学校教員/指導主事	専門研修
46	8月1日	真岡市教育委員会	教育課題研修会	真岡市芳賀地区内の小中学校教職員	専門研修
47	8月1日	大分県高等学校教育研究会農業部会	平成30年度 第58回大分県高等学校農業教育研究大会	県内農業関係高校教員	専門研修
48	8月2日	鳥取県教育センター	平成30年度 教科・領域指導力向上セミナー「学習科学メンター育成コース」3	県内教員	専門研修
49	8月2日	高知県立高知南高等学校	探究型学習推進チーム会研修会	県内教職員	校内研修
50	8月4日 5日	新しい学びプロジェクト研究協議会 東京大学 CoREF	平成30年度 「新しい学びプロジェクト全体研究会」及び「学習の科学に基づく授業づくりとその支援についての研究会」	プロジェクト参加教員/担当者/研究者等	専門研修
51	8月6日	柏市教育委員会	平成30年度 柏市小中学校教職員研修	市内小・中学校中堅教諭	年次研修
52	8月9日	琉球大学教育学部附属中学校	平成30年度 夏季研修会（校内）	学内教職員	校内研修
53	8月10日	琉球大学教育学部附属中学校	平成30年度 夏季研修会（一般）	県内小中学校教員	専門研修
54	8月21日	新潟県教育委員会	平成30年度 中堅教諭等資質向上研修「学習指導研修1」	県内小中学校教員	専門研修
55	8月23日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業（フィリピン）第4回専門家派遣（国立科学高校）	授業研究会	授業研究会
56	8月24日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業（フィリピン）第4回専門家派遣（マングラエ総合高校）	校内教員、教育行政担当者	授業研究会
57	8月24日	浜田市教育委員会	平成30年度 協同学習（知識構成型ジグソー法）研修会	市内教職員	専門研修
58	8月26日	東京大学 CoREF	平成30年度 第4回本郷学習科学セミナー	関係小中学校教員/指導主事	専門研修
59	8月28日	上尾市立上平中学校	平成30年度 校内研修会	校内教員	専門研修
60	9月1日	学校法人清風学園	アクティブ・ラーニング研修会	学内教職員	授業研究会
61	9月12日	文化学園長野中学・高等学校	Active Learning 研修会	学内教員	授業研究会
62	9月14日	埼玉県立総合教育センター	平成30年度 管理職対象授業力向上マネジメント研修会（第2日）	県公立高等学校、特別支援学校、県立中学校の校長及び教頭	管理職研修

表 30：平成 30 年の研修実施状況一覧（1/2）

第1章 連携事業の展開

番号	日時	主催	名称	主な対象	カテゴリ
63	9月18日	鳥取県教育センター	平成30年度 教科・領域指導力向上ゼミナール「学習科学メンター育成コース」4	県内教員	専門研修
64	9月19日	東神楽町教育委員会	平成30年度 東神楽町「新しい学び」研究会学習会	町内小・中学教員	授業研究会
65	9月28日	世羅町立世羅西中学校	せらにし教育研究会 協働学習研修会	世羅町内小・中学教職員	授業研究会
66	9月29日	東京大学 CoREF	平成30年度 第5回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
67	10月10日	埼玉県立総合教育センター	平成30年度 高等学校初任者研修	県内高等学校初任者	年次研修
68	10月11日	鴻巣市教育委員会	校内研修会(鴻巣市立常光小学校)	校内教員	授業研究会
69	10月16日	川口市教育委員会	平成30年度川口市教職員研修501 高等学校教育課程研修会(アクティブラーニング研修1)	市内高等学校教員	専門研修
70	10月16日	豊後高田市教育委員会	第2回「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習・指導方法改善実践研究指定校公開研修会	市内教職員	授業研究会
71	10月17日	大分県教育委員会	平成30年度「第3回深い学び研究会」	授業改善の推進的役割を担う高等学校教員	専門研修
72	10月18日	安芸太田町教育委員会	校内研修会(加計小学校)	町内小・中学教員	授業研究会
73	10月19日	安芸太田町教育委員会	校内研修会(加計中学校)	町内及び近隣の中学校教員	授業研究会
74	10月19日	鳥取県教育委員会	平成30年度アクティブ・ラーニング推進事業「学びの文化祭 in Yonago」	県内小中高等学校・特殊学校・義務教育学校の教員	専門研修
75	10月22日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業(フィリピン) 第5回専門家派遣(マンガウエ総合高校)	校内教員、教育行政担当者	専門研修
76	10月23日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業(フィリピン) 第5回専門家派遣(国立科学高校)	校内教員、教育行政担当者	専門研修
77	10月24日	埼玉県教育委員会	JICA 草の根技術協力事業(フィリピン) 第5回専門家派遣(グアダルベ小学校)	校内教員、教育行政担当者	専門研修
78	10月26日 27日	竹田市教育委員会 東京大学 CoREF	平成30年度「新しい学びプロジェクト in 竹田」授業研究会	市内及びプロジェクト参加教員	授業研究会
79	11月4日	東京大学 CoREF	平成30年度 第6回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
80	11月9日 10日	有田川町教育委員会 東京大学 CoREF	平成30年度「新しい学びプロジェクト」授業研究会及び「新しい学びプロジェクト」教科別等研修会	町内及びプロジェクト参加教員	授業研究会
81	11月12日	福井県教育総合研究所	高校数学授業づくり研究グループ 公開授業・授業研究会(福井県立武生高等学校)	県内数学教員、教育研究所員等	授業研究会
82	11月14日	山形県教育センター	平成30年度探究型学習推進講座C	県内小中高等学校の教員	専門研修
83	11月14日	高知県立高知南中学校・高等学校	平成30年度高知南中学校・高等学校グローバル教育発表会	県内高等学校教職員	授業研究会
84	11月15日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町協働学習研修会(簡賀小学校)	町内小中学校教員	授業研究会
85	11月16日	安芸太田町教育委員会	校内研修会(上殿小学校)	校内教員	校内研修
86	11月19日	久喜市立江面第二小学校	第6回授業研究会	校内教員	授業研究会
87	11月20日	静岡県総合教育センター	新学習指導要領対応授業力向上研修(高等学校・特別支援学校)	県内高等学校・特別支援学校教員	専門研修
88	11月20日	安芸太田町教育委員会	授業研究会(加計中学校)	町内及びプロジェクト参加教員	授業研究会
89	11月21日	安芸太田町教育委員会	校内研修会(加計小学校)	校内教員	授業研究会
90	11月21日	埼玉県教育委員会	平成30年度外国語指導助手指導力向上研修	県内外国語指導助手	専門研修
91	11月22日	京都府立大学附属桃山中学校	平成30年度教育研究発表会	一般	一般向け
92	11月27日	飯塚市教育委員会	平成30年度飯塚市協働学習推進に係る研修会第2回	町内教職員	授業研究会
93	11月27日	江府町立江府小学校	授業研究会	校内及び郡内小学校教員他	授業研究会
94	11月28日	鴻巣市教育委員会	委嘱研究発表会(鴻巣市立常光小学校)	市内教職員	授業研究会
95	12月1日	埼玉県教育委員会 東京大学 CoREF	平成30年度 未来を拓く「学び」プロジェクト 第2回カンファレンス	プロジェクト参加教員	専門研修
96	12月4日	東神楽町教育委員会	平成30年度 東神楽町「新しい学び」研究会学習会	町内教職員	授業研究会
97	12月6日	静岡県立吉原工業高等学校	平成30年度校内研修会	校内教職員	校内研修
98	12月7日	川口市教育委員会	平成30年度川口市教職員研修501 高等学校教育課程研修会(アクティブラーニング研修II)	市内高等学校教員	専門研修
99	12月10日	久喜市立江面第二小学校	第7回授業研究会	校内教員	授業研究会
100	12月10日	美祿市立厚保中学校	厚保中学校公開授業並びに研修会	校内及び近隣教員	授業研究会
101	12月10日	福井県教育総合研究所	高校数学授業づくり研究グループ 公開授業・授業研究会(福井県立羽水高等学校)	県内数学教員、教育研究所員等	授業研究会
102	12月14日	鳥取県教育センター	教科・領域指導力向上ゼミナール「高等学校学習科学セミナーメンター育成コース」5	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
103	12月16日	東京大学 CoREF	平成30年度 第7回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
104	12月18日	大分県教育委員会	深い学び研究会に係る公開授業及び授業研究	県内小中高等学校教員	授業研究会
105	12月19日	学校法人清風学園	アクティブ・ラーニング研修会	学内教職員	授業研究会
106	12月25日	東洋大学附属牛久中学校・高等学校	東洋大学附属牛久中学校・高等学校 宿泊型教職員合同研修	学内教職員	校内研修
107	12月26日	埼玉県教育委員会	平成30年度未来を拓く学びプロジェクト シンポジウム	プロジェクト参加教員及び一般	一般向け
108	1月9日	東洋大学ライフデザイン学部	東洋大学ライフデザイン学部 FD 講演会	学内教職員	校内研修
109	1月10日	森上教育研究所	私学中等教育セミナー	私立中高教員	専門研修
110	1月12日	厚木市教育委員会	平成30年度 厚木市教育研究所「先生のための寺子屋(知識構成型ジグソー法)」	市内立小・中学校教職員	専門研修
111	1月16日	国立教育政策研究所	平成30年度教育研究公開シンポジウム	一般	一般向け
112	1月18日	飯塚市立鯉田小学校	飯塚市立鯉田小学校研究発表会	市内小中教員/指導主事	授業研究会
113	1月23日	埼玉県立総合教育センター	平成30年度 高等学校初任者研修	県内高等学校初任者	年次研修
114	1月24日	安芸太田町教育委員会	平成30年度文部科学省 人権教育総合推進地域指定(安芸太田中学校区) 公開研究会	町内教職員/指導主事	授業研究会
115	1月24日	九重町教育委員会	校内研修会(九重町立南山田小学校)	校内教員	授業研究会
116	1月25日	九重町教育委員会	九重町 協働学習研修会	町及び近隣教職員	授業研究会
117	1月26日	東京大学 CoREF	平成30年度 第8回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
118	1月28日	久喜市立江面第二小学校	第8回授業研究会	校内教員	授業研究会
119	2月2日	新しい学びプロジェクト 研究協議会 東京大学 CoREF	新しい学びプロジェクト教科部会	プロジェクト参加教員	専門研修
120	2月3日	新しい学びプロジェクト 研究協議会 東京大学 CoREF	平成30年度新しい学びプロジェクト報告会	プロジェクト参加教員及び一般	一般向け
121	2月8日	飯塚市教委委員会	飯塚市教育委員会指定【ICTモデル校・菘田プロジェクト】研究発表会	校内及び近隣教職員	授業研究会
122	2月9日	中央教育研究所	教育シンポジウム in 東京2019(第23回)	一般	一般向け
123	2月15日	福井県教育総合研究所	平成30年度 第33回 福井県総合教育研究所研究発表会	県内外の教職員、教育関係者	専門研修
124	2月16日	山形県教育庁	山形県立東桜学館中学校・高等学校 SSH 運営指導委員会	運営指導委員会	専門研修
125	2月19日	山形県立谷地高等学校	山形県立谷地高等学校 平成31年度研修	校内教職員	校内研修
126	2月25日	浜田市教育委員会	校内研修会(浜田市立第三中学校)	校内教職員	校内研修
127	2月26日	浜田市教育委員会	授業研究会(浜田市立旭中学校)	校内教職員	授業研究会
128	2月26日	浜田市教育委員会	授業研究会(浜田市立金城中学校)	校内教職員	授業研究会
129	3月2日	東京大学 CoREF	主体的・対話的で深い学びの実現を支える行政の取組に関する研究会	プロジェクト参加教育行政関係者	専門研修
130	3月3日	東京大学 CoREF	平成30年度 第9回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
131	3月16日	独立行政法人国際協力機構	教師海外研修全体報告会	関係教員	専門研修
132	3月28日	学校法人清風学園	アクティブ・ラーニング研修会	学内教職員	授業研究会

表 31：平成30年の研修実施状況一覧(2/2)

教育委員会等との連携で複数回にわたって実施した特色ある研修の一例については別にその概要を表 32 に示す。どの研修も「知識構成型ジグソー法」を共通の型として、継続的な授業改善の PDCA サイクルを回すことを主眼にしたものである。

研修事業名	対象者	概要（目的と実施回数）
埼玉県 高等学校初任者研修「授業力向上研修」	高等学校初任者 (悉皆)	・生徒の総合的な学力向上に資する授業力の向上 ・対面研修 4 回（全日 2 回・半日 2 回） 所属校研修（授業実践と振り返り）2 回
鳥取県 「学習科学セミナー メンター育成コース」	県内高等・特別 支援学校教諭の うち、協調学習 の実践経験のある者	・AL の視点に立った授業づくりを推進する ファシリテーター及びメンターとなる教員の養成 ・対面研修全日 5 回（うち授業研究会 2 回） 授業実践と振り返り 2 回
大分県 「深い学び研究会」	県立高等学校の 指導教諭等、授 業改善の推進的 役割を担う者 (新規・継続参 加いずれも可)	・新しい学びのあり方について理解し、県内 及び校内への波及を図る ・対面研修全日 3 回 授業実践と振り返り 1 回 本郷学習科学セミナーの活用 ・関連の取組として中高連携の授業研究会 1 回

表 32：今年度実施した教育委員会との連携による主な研修の概要

一例として、上記のうち大分県「深い学び研究会」のプログラムを表 33 に示す。

「深い学び研究会」は、県内の高等学校において授業改善の推進的役割を担う先生方を対象にした研究会であり、前事業「授業スキル研究会」から通算して 4 年目の実施となる。

会の特徴として、前年度までの参加者の継続参加を推奨しており、今年度は 51 名の参加者のうち、16 名が継続の参加者、35 名が新規の参加者であった。

研究会の第 1 日目を新規の参加者を対象にした基礎的な内容にあて、第 2 日目以降を継続の参加者も交えての実践的な内容にあてている。

継続参加の先生方がいらっしゃるおかげで新規の参加者の先生方が短期間で具体的な実践のイメージをつかむことができる。また、新規の参加者の持ち込む課題について一緒に考えることが継続参加者の学び続ける材料になる。またこうした参加者間のつながりそのものが学んだことを研修で終わりにせず、日常の取組として濃淡はあっても継続し続けられる基盤を形成している。

また昨年度から研究会参加者を主な対象に「新しい学びプロジェクト」で同じ協調学習の授業づくりに取り組み県内市町と連携して、中高合同の授業研究会を実施している。授

業研究会では、第1部第2章で紹介するような学びの事実に基づいた仮説検証型のスタイルで校種教科を超えて議論を深めることができた。

日程	内容
第1日目 (5/23) ※新規の参加者 対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講義「一人ひとりの学ぶ力を引き出す授業のデザイン」(25分)</li> <li>○演習「知識構成型ジグソー法授業体験」(45分)</li> <li>○講義・演習「知識構成型ジグソー法の授業づくり」(40分)</li> <li>○講義・演習「アクティブ・ラーニングを実現するための学習評価」(105分)</li> <li>○協議「実践に向けて」(45分)</li> </ul> <p>※参考資料として「協調学習授業デザインハンドブック」を配布</p>
課題	<p>《新規の参加者》検討できる授業案・教材を準備する</p> <p>《継続の参加者》実践報告を準備する</p>
第2日目 (7/11) ※新規及び継続 の参加者対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講義「主体的・対話的で深い学びを目指す授業実践研究の前提」(15分)</li> <li>○教科部会1：実践報告と意見交流(75分)</li> <li>○講義「主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究」(25分)</li> <li>○教科部会2：実践に向けてのシミュレーションと教材検討(100分)</li> <li>○演習：見とりの観点の設定(50分)</li> </ul>
課題	<p>《新規の参加者》実践報告を準備する</p>
第3日目 (10/17) ※新規及び継続 の参加者対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>○演習：学びの記録に基づく授業研究(125分)</li> <li>○協議1：授業実践の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入講義(20分)</li> <li>・実践の共有と授業デザインの仮説作り(100分)</li> </ul> </li> <li>○協議2：深い学びを支える授業デザインの仮説整理(25分)</li> </ul>
関連の取組 (12/18) ※県立高等学校 及び市内小中 学校教員の希 望者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前研究協議「中学校での研究授業について」(25分)</li> <li>○研究授業観察(中学校)(50分)</li> <li>○事前研究協議「高等学校での研究授業について」(20分)</li> <li>○研究授業観察(高等学校)(50分)</li> <li>○事後研究協議「中学校での研究授業について」(50分)</li> <li>○事後研究協議「中学校での研究授業について」(50分)</li> </ul>

表33：大分県「深い学び研究会」のプログラム

東京大学 CoREF では、他にも様々な対象に応じた研修プログラムをデザイン、実施している。こうした研修プログラムの具体例については、平成28年度活動報告書第1部第2章に詳しく取り上げた(付属DVD「参考資料」フォルダ参照のこと)。今後、CoREFと連携して研修を行う希望のある方は、上記の箇所や本報告書第1部第2章等をご覧になって、こんな研修を行いたいというご相談をいただければと思う。